２００５年２月２日
三菱ふそうトラック・バス株式会社
広　報　部

品質問題に係わる徹底した調査の結果について

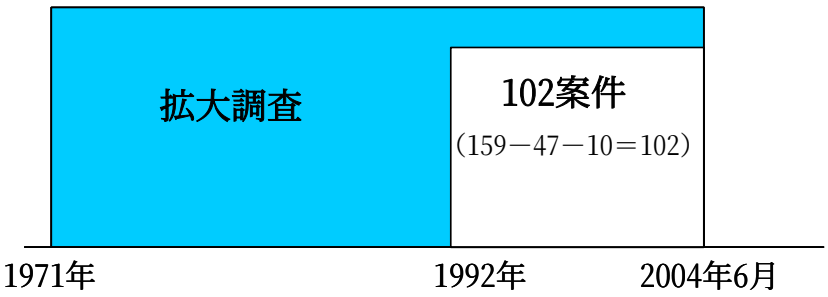
102 案件の再精査および拡大調査

弊社は、安全性に係わる過去の不具合案件について社内に残るすべての資料に基づき、可能な限り調査を行ない昨年 6 月 14 日に対象が 159 案件あることを公表致しました。その内、優先順位の高い 47 案件については昨年 10 月末までに市場措置の届出をすべて完了しております。残り 112 案件のうち海外の案件（10 件）を除く 102 案件についても徹底的に市場措置要否の再精査を行ないました。なお、海外の案件につきましては、現地の法規に沿って適切な処置を行ないました。
さらに昨年 10 月 27 日に公表しました通り、可能な限り過去に遡り、品質問題の拡大調査を実施致しました。それらの結果がまとまりましたので、本日以下のとおりご報告申し上げます。
なお、その結果約 11 万台の市場措置を実施致します。

１．各調査結果の概要

102 案件を対象とした再精査および販売会社､関連会社に現存するすべての品質関連の書類を収集し（約 28 万枚)、過去 70 年代まで遡った徹底的な「拡大調査」を実施しました。

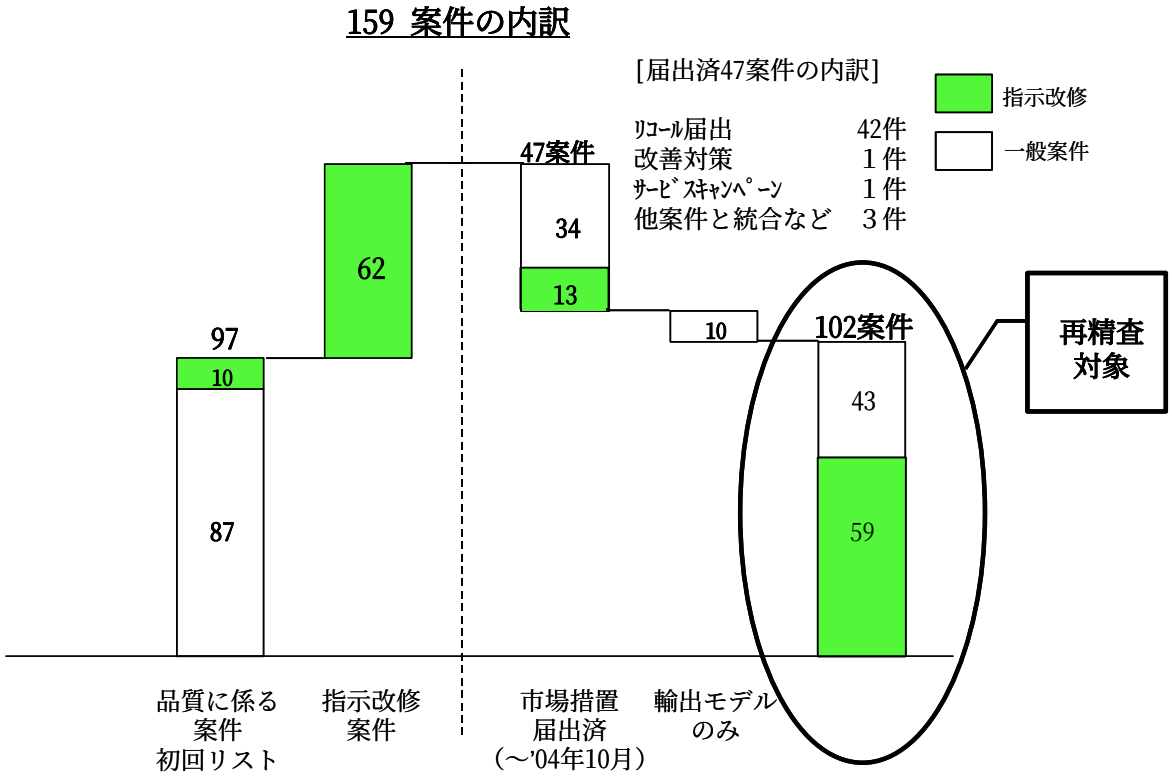
102案件と拡大調査の位置付け



２．102 案件再精査

（１） 調査の対象と内訳

次ページ図の通り、元々159 案件は品質に係わる案件初回リスト 97 案件および社内に残る指示改修書類等から抽出した指示改修 62 案件からなっています。2004 年 10 月までに届出た 47 案件と輸出モデル 10 件を除いた残りが 102 案件ですが､当該 102 案件は指示改修 59 件と一般案件 43 件からなります。



（２）再精査の基準および作業内容

この 102 案件について再精査致しました。精査に当たっては以下の 3 つの観点から作業を行ないました。

・事故に至るリスクは低いものの、保安基準に抵触する案件か。
・車検、定期点検等で不具合部位の修理、交換が 100%実施されたとの確証が得られるか。
・整備、使用環境の問題として解決できると考えられるか。

それを踏まえ、以下の３つの作業を行ないました。

１）商品情報連絡書の見直し
２）整備・車検等で不具合防止が担保されていたか否かの確認（アンケート調査、電話確認）
３）補用品の出庫状況の確認

（３）市場措置要否検討のための分類

その結果、案件を下記の 5 つに分類し、市場措置要否を検討することと致しました。

「分類１」：市場措置(リコールもしくはサービスキャンペーン)を行なう案件
「分類２」：商品性または、不具合が早期に起こるもので、現在は是正されており、かつ定期点検、車検点検時に確認、是正されている案件
「分類３」：設計、製造に起因しないもので措置不要と判断した案件
「分類４」：措置済み案件
「分類５」：本来ならリコール案件だが不具合が早期に発生するもので、現在は是正されており、今後発生する可能性が低く措置不要と判断した案件

（4）再精査結果と市場措置案件数

上記の作業を基に国土交通省と協議の結果、計 20 件のリコールを実施することに致しました。
（詳細は別紙１）

案件		検討案件	項　目	要措置案件		措置不要と判断した案件			
				リコール	サービスキャンペーン	サービスキャンペーン相当（注1）	設計・製造に起因せず措置しない案件	措置済み案件	リコール案件だが、今後発生可能性が小さく市場措置しない案件
				分類１		分類２	分類３	分類４	分類５
６２案件	指示改修	５６	７９	２０ (16)(注2)	2	４５	0	6	6
９７案件	指示改修	3	3	1	2	0	0	0	0
	一般案件	４３	４５	3	0	１６	１６	7	3
合計		１０２	１２７	２４ (20)(注2)	4	６１	１６	１３	9

指示改修及び一般案件の中で、1 案件の中に複数の不具合が含まれているものがあり結果的に指示改修は 59 案件（82 項目）、一般案件は 43 案件（45 項目）となりました。

(注１)サービスキャンペーン相当の案件については、今後の不具合発生の状況を注視し、
必要に応じてサービスキャンペーンを実施する。
(注２)リコール等の届出については、他項目との統合の結果、増減し、括弧内の数字で示す。

（5）リコール対象車種、台数および事故発生状況

上記の内、20 件のリコール対象車両について、物損 5 件、火災 3 件がありました。車種別の内訳は以下のとおりです。

リコール対象車種、台数および事故発生状況（詳細は別紙２）

	リコール件数	登録台数	生産台数	事故発生状況		
				人身	物損	火災
大型トラック	8(7)(注2)	４２,３００	４３,９００	0	0	1
中型トラック	2	５,４００	５,７００	0	0	0
小型トラック	3	５,０００	５,５００	0	0	0
大型バス	6(3)(注2)	６,９００	１１,１００	0	0	0
中型バス	3	９００	１,０００	0	0	2
小型バス	2	１,２００	１,４００	0	5	0
計	24(20)(注2)	６１,７００	６８,６００	0	5	3

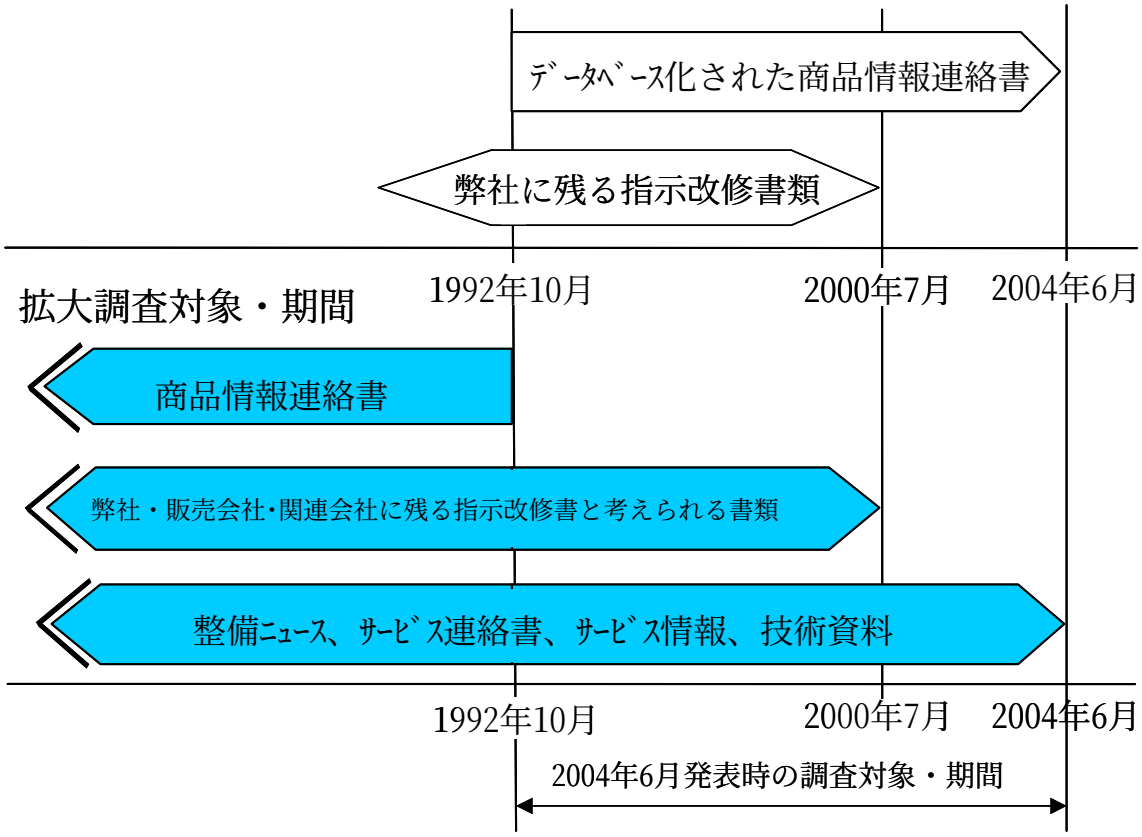
（台数は重複を含まず概数）

３．拡大調査

（１）調査の対象書類と期間

過去の品質情報の拡大調査として、販売会社で保管されていた指示改修と考えられる書類に加え、弊社、販売会社および関連会社で保管されていた収集可能な品質情報関連書類（商品情報連絡書、サービス連絡書、サービス情報、整備ニュース、技術資料）を全て回収致しました。
回収した書類は約 28 万枚（ﾀﾞﾝﾎﾞｰﾙ箱で 130 箱分）にのぼり、中には 33 年前（1971 年）のものもありました。これを 04 年 10 月から 05 年１月にかけて関連部門の社員延べ約 2,000 人･日を動員し、調査を実施致しました。この約 28 万枚から同一書類を除いた結果、約 33,050 案件を抽出しました。

拡大調査対象書類と期間



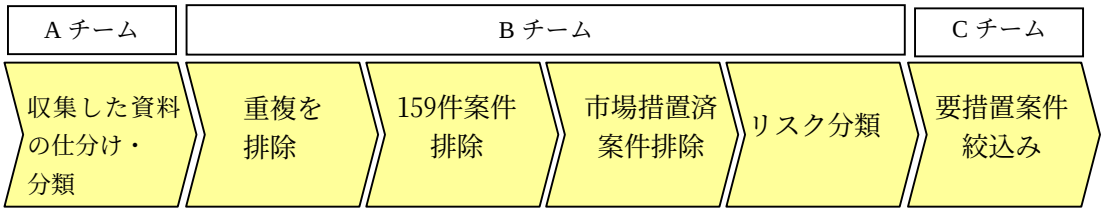
年代別の内訳は次の通りです（単位：件）

年代	70 年代	80 年代	90 年代	2000 年以降	年代不明	合計
指示改修書 ｻｰﾋﾞｽ情報等	２５０	７，８００	１１,４００	４３０	３７０	２０,２５０
整備ニュース	１２，８００（年代別分類：未作業）					１２，８００
					合計	３３，０５０

（２）調査方法

今回の拡大調査にあたり、以下の A～C の３チームに分けて作業を進めました。

① A チームで収集した資料を指示改修関連資料、商品情報連絡書、その他技術資料を 3 種類に仕分け分類し、マスターリストを作成
② B チームで各資料毎に重複、159 案件、および措置済案件の排除を行ない、リスクを分類して検討案件を洗い出し
③ C チームで要措置案件を絞込み



なおＢチームによる、リスク分類にあたっては、各案件の不具合事象、発生件数、事故の有無等を基準に以下の 3 種類に分類致しました。

Ⅰ：直接事故につながる恐れのある不具合
Ⅱ：間接的に事故につながる恐れのある不具合
Ⅲ：事故につながるリスクの少ない不具合

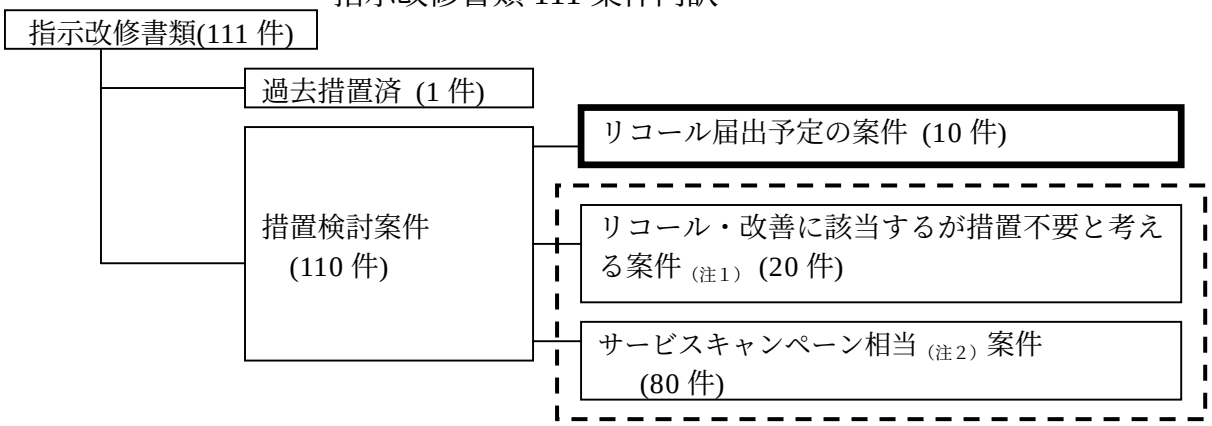
（３）調査結果と市場措置予定件数

以上の作業の結果、指示改修案件 10 件と一般案件 7 件の合計 17 件のリコールを届出することと致しました。（詳細は別紙３）

①指示改修関連

合計 111 件の指示改修案件を抽出し、これらを 102 案件と同様の判断基準に基づき精査し、内 10 件をリコールとして届出することと致しました。
これら 10 件について人身・物損・火災の有無を調査したところ、発生していないことを確認致しました。
これらは現時点で弊社の判断で行ったものであり今後、措置不要と判断した案件
(20 件+80 件)に関しては国土交通省と協議の上、措置判断の妥当性を検証致します。
（3 月末まで）

指示改修書類 111 案件内訳



(注 1) 現時点で今後発生の可能性が無いと判断するもの

(注 2) サービスキャンペーン相当の案件については、今後の不具合発生の状況を注視し、必要に応じてサービスキャンペーンを実施する。

②一般案件

102 案件と同様の精査を行った結果、合計 7 案件を抽出し、リコールの届出を実施することと致しました。

（4）リコール対象車種、台数および事故発生状況

以上について人身・物損・火災の有無を調査した結果、下記の内訳の通り、合計 12 件ありました。

リコール対象車種、台数および事故発生状況（詳細は別紙４）

	市場措置件数	登録台数	生産台数	事故発生状況		
				人身	物損	火災
大型トラック	９	３４，７００	７４，０００	２	９	１
中型トラック	１	５０	１００	０	０	０
小型トラック	０	０	０	０	０	０
大型バス	６	１２，６００	２４，４００	０	０	０
中型バス	０	０	０	０	０	０
小型バス	１	６０	８０	０	０	０
計	１７	４７，４１０	９８，５８０	２	９	１

（台数は重複を含まず概数）

４．市場措置の今後の対応目処

102 案件､拡大調査案件の中で､市場措置を行なう予定の案件については､下記の１、２の優先順位を付け届出を行なう予定ですが、別紙１、３リストに優先度を記入しています。

優先度１．３月末まで　(安全に直接係わる案件)
優先度２．６月末まで　(安全に間接的に係わる案件)

５．海外市場における“緊急性の高い市場措置 6 案件”の追加調査結果

海外市場における“緊急性の高い市場措置 6 案件”については、弊社内にある不具合情報（商品情報連絡書）を元に不具合状況を「不具合情報合計 15 件、事故情報無し」として昨年 11 月 17 日に報告致しました。今回それらの情報に関して、対象車両のある全ての国の販売会社(ディストリビューター)に対して再調査を依頼し、その結果がまとまりましたので併せてご報告致します。

（１） 調査概要

①調査対象国および回答国

出荷台数の多い国々からの回答は全て入手しました。その結果、回答国の出荷台数カバー率は約 93%に達しています。

４７案件 No.	件名	調査国数
1	大型トラッククラッチハウジング	67
3	大型バス流体式ﾘﾀｰﾀﾞ装着車ﾌﾟﾛﾍﾟﾗｼｬﾌﾄｴﾝﾄﾞﾖｰｸ	2
17	小型バスローザ非常ドアの開放	15
23	小型トラックキャンターブレーキライン	3
46	小型バスローザ荷物扉開放	8
－	大型車フロントハブ不具合	64

②調査期間　2004 年 11 月 17 日～2005 年 1 月 21 日（金）

③調査内容

・現地販売会社（ディストリビューター）に対し最大限過去に遡り商品情報連絡書・事故発生を含む品質問題に関する資料及び情報の精査実施を弊社海外担当部門から依頼。具体的には、未報告案件の商連書・事故情報が有る場合には至急報告する指示とした。

・調査方法は「商品情報連絡書」および「事故情報」の精査を主眼に可能な限り多くの関連書類をチェックすることおよびサービス担当者の聞き取りを指示。

④主要国における主な調査方法

・台湾
概要： 過去 10 年間の市場における商品情報連絡書の再確認を実施。
また、サービス関係者（本社および 19 支店）への不具合・事故情報の聞き取りを実施。
・オーストラリア
概要： 過去 8 年間の商品情報連絡書と過去 16 年間のサービス会議資料の再確認を実施。
また、サービス関係者への不具合・事故情報の聞き取りを実施。
・中国
概要： 過去 5 年間の商品情報連絡書の再確認を実施。
また、現地商社および現地サービス代理店での情報再確認を実施。

（2）調査結果

- 昨年 11 月 17 日時点の報告に含まれなかった、商品情報連絡書 1 件があったことを確認いたしました。（トルコからの大型バスプロペラシャフトに関するもので、人身・物損の事故情報はありません。）
- 従って、11 月 17 日報告時で当該不具合情報は 1 件と報告しましたが、今回 2 件に訂正致します。
- これは、トルコ販売会社から同日に同様の不具合情報（1 件は商品情報連絡書、1 件はメモ）について弊社に連絡があったものの、内容も全く同じであったため、弊社で 1 件に扱い集計したことによるものです。

- 上記の他は、新たな不具合情報・事故情報はないことが今回の調査で再確認できました。

弊社の過去の品質問題につきましては、ご迷惑とご心配をお掛けし、改めて深くお詫び申し上げます。今後は今回の市場措置の早急な届出を行なうとともに、より一層リコール作業の実施促進に努めて参ります。

以上

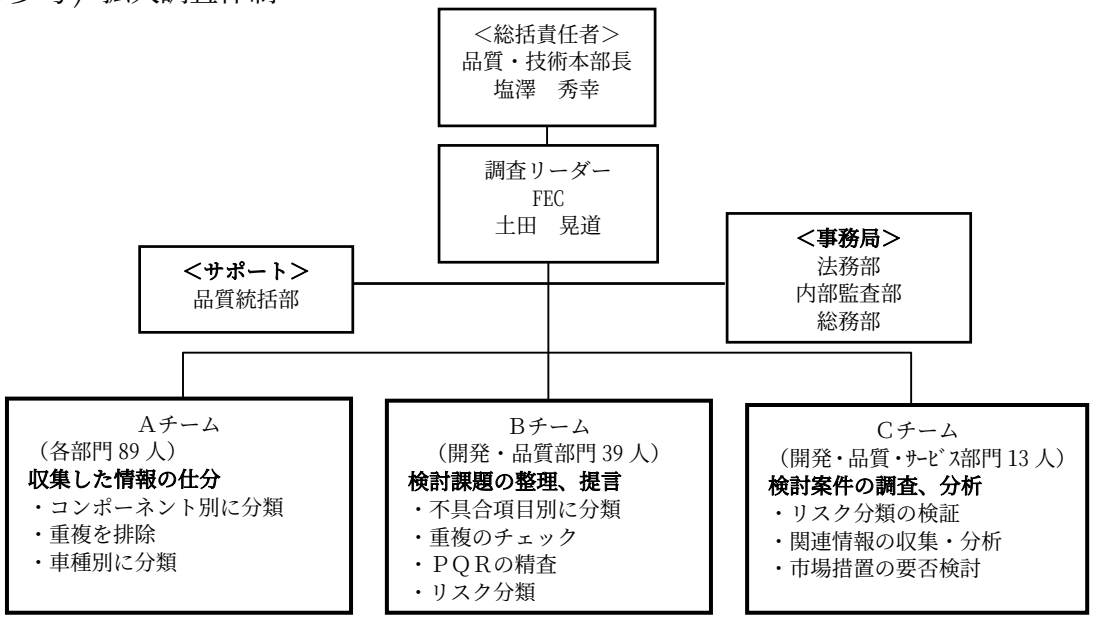
別紙１　102 案件の詳細リスト

別紙２　102 案件市場措置案件の人身・物損・火災の詳細リスト

別紙３　拡大調査案件の市場措置案件の詳細リスト

別紙４　拡大調査案件の市場措置案件の人身・物損・火災の詳細リスト

(ご参考) 拡大調査体制



１０２案件の詳細リスト

別紙 1
2005.2.2

1. リコール案件
(1) 指示改修 (２０件)

No	対象車種	優先度	関係書類発行日	項目	不具合原因	不具合事象	製造 期間	対象台数	登録台数(推定)	合計 92/10～04/10 商連書件数 不具合件数	人身	物損	火災
1	大型トラック	2	作業依頼書 96/5/27	非駆動ｱｸｽﾙ　製造不良	溶接ﾄｰﾁずれによる溶け込み不足	ｱｸｽﾙの溶接部亀裂、または亀裂進行によりﾌﾞﾚｰｷ引き摺りで加熱発煙やｱｸｽﾙ折損のおそれがある。	95/11～96/3	3,600	3,300	4	0	0	1
2	大型トラック	2	作業依頼書 97/9/8	ﾄﾗﾝｽﾐｯｼｮﾝ本体取付けのｷﾞﾔｼﾌﾄﾚﾊﾞｰ不良	ｽﾌﾟﾗｲﾝｼｬﾌﾄとﾚﾊﾞｰ部の嵌合不適切により取付けボルﾄ緩み	ボルト緩みでｷﾞﾔｼﾌﾄﾚﾊﾞｰが初期位置からずれて、最悪の場合はｷﾞﾔｼﾌﾄ不能となる。	96/9～98/4	594	550	23	0	0	0
3	大型トラック	2	指示改修依頼書 98/6/4	ﾘﾀｰﾀﾞ用冷却水配管の取付けﾌﾞﾗｹｯﾄ不良	ﾌﾞﾗｹｯﾄの強度が不足	強度不足により亀裂が発生、または亀裂進行によりﾌﾞﾗｹｯﾄが折損する。	95/9～97/6	853	800	1	0	0	0
4	大型トラック	2	指示改修依頼書 98/6/4	No2の追加処置	No2の追加処置	No2の追加処置 ねじｻｲｽﾞ増大	95/9～98/6	1,145	1,000	11	0	0	0
5	小型トラック	2	指示改修作業依頼書 95/7/18	全低床系　ABS付車　ﾌﾞﾚｰｷ配管の隙間不足	ﾘﾔｱｸｽﾙ取付けﾌﾞﾚｰｷ配管が、ｼｮｯｸｱﾌﾞｿｰﾊﾞと隙間余裕が少なく、寸法精度誤差や走行条件により干渉する。	配管傷付き、または穴明きによりﾌﾞﾚｰｷ液漏れ	94/1～95/8	64	50	2	0	0	0
6	小型トラック	1	指示改修作業依頼書 97/6/10	駐車ﾌﾞﾚｰｷｹｰﾌﾞﾙ外れ	ｹｰﾌﾞﾙが、ｷｬﾌﾞﾁﾙﾄ上昇時ｻﾎﾟｰﾄｽﾄｯﾊﾟに引っ掛り、ｷｬﾌﾞﾁﾙﾄ下降時にｷｬﾌﾞ内の駐車ﾌﾞﾚｰｷﾚﾊﾞｰから外れる。	駐車ﾌﾞﾚｰｷ制動力保持不能	96/11～97/3	5,500	5,000	3	0	0	0
7	大型バス	2	作業依頼書 92/1/14	ｴｱｻｽﾍﾟﾝｼｮﾝｻﾎﾟｰﾄ腐食	塗装品質が不十分(事前洗浄、ｵｲﾙ除去不足、塗装付着不良)および水抜き構造の不良により錆びが進行。日常ﾒﾝﾃﾅﾝｽ不足も錆促進の要因。	不具合発生時にはｴﾝｼﾞﾝ異音･振動で予見性はあるが、市場措置を検討する。	82/12～93/7	9,629	6,400	107	0	0	0
8	中型バス	2	作業依頼書 97/1/23	前軸のﾘｰﾌｽﾌﾟﾘﾝｸﾞ　Uﾎﾞﾙﾄ折損	旋回中のｱｸｽﾙｽﾃｱにより、Uﾎﾞﾙﾄ座部に過大なこじり力が発生し、それによりUﾎﾞﾙﾄが緩む。	不具合発生時にはｴﾝｼﾞﾝ異音･出力不足で予見性はあるが、市場措置を検討する。	93/9～96/8	738	700	24	0	0	0
9	小型バス	1	作業依頼書 96/5/29	駐車ﾌﾞﾚｰｷのｹｰﾌﾞﾙ外れ	駐車ﾌﾞﾚｰｷｹｰﾌﾞﾙが、組付けﾊﾞﾗﾂｷで引っ張り気味に組付けられた場合、ﾚﾊﾞｰ操作時にｹｰﾌﾞﾙｸﾘｯﾌﾟから外れる方向の力が加わり、最悪の場合は外れる。	駐車ﾌﾞﾚｰｷ制動力保持不能	89/11～96/6	9,339	1,200	43	0	5	0
10	大型トラック	2	作業依頼書 96/5/23	ﾌﾞﾚｰｷ配管の隙間不足	車枠(ﾌﾚｰﾑ)内部への配管作業時に、組付けし易くするために、作業者が配管を手で変形させて組付けた車両は、ﾄﾗﾝｽﾐｯｼｮﾝｺﾝﾄﾛｰﾙﾛｯﾄﾞと所定の隙間が確保されずに干渉するおそれがある。	干渉により、配管が穴明き、ﾌﾞﾚｰｷ液漏れするおそれがある。	95/1～96/4	3,196	2,800	5	0	0	0
11	中型トラック	2	作業依頼書 99/2/26	ﾃﾞｨｽﾁｬｰｼﾞ式ﾍｯﾄﾞﾗﾝﾌﾟ不灯	･ﾍｯﾄﾞﾗﾝﾌﾟへの電力供給を制御するECU(ｴﾚｸﾄﾛﾆｯｸｺﾝﾄﾛｰﾙﾕﾆｯﾄ)の、ﾊﾞﾙﾌﾞｼｮｰﾄ判定ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの不良、ならびにｺｲﾙ巻線の傷付によるｼｮｰﾄの発生により、ﾍｯﾄﾞﾗﾝﾌﾟへの電力供給が停止する。	極低温で始動時ﾍｯﾄﾞﾗﾝﾌﾟ不灯となるおそれがある。	97/5 ～99/1	5,750	5,400	67	0	0	0

１０２案件の詳細リスト

別紙 1
2005.2.2

12	中型トラック	2	作業依頼書 99/6/11	ｲﾝｽﾄﾙﾒﾝﾄﾊﾟﾈﾙ部ﾊｰﾈｽｼｮｰﾄ	ECUﾌﾞﾗｹｯﾄにｴｯｼﾞがあり、ﾊｰﾈｽが損傷する。	走行中の振動でｼｮｰﾄし、ﾋｭｰｽﾞ切れやｴﾝｽﾄ･始動不良となるおそれがある。	99/2～99/5	39	38	1	0	0	0
13	小型トラック	2	作業依頼書 99/8/21	LPG燃料の配管干渉	燃料配管のｸﾗﾝﾌﾟﾌﾞﾗｹｯﾄに誤品を組付けたため、配管がﾄﾗﾝｽﾐｯｼｮﾝｺﾝﾄﾛｰﾙのﾀﾞﾝﾊﾟｰ寄りに取付けられた。	ﾊﾟｲﾌﾟ穴明き、燃料漏れのおそれがある。	99/6～99/7	13	12	0	0	0	0
14	大型バス	2	作業依頼書 97/1/10	噴射ﾎﾟﾝﾌﾟｱｸｾﾙﾘﾝｸ引っ掛かり	ｱｲﾄﾞﾙｱｯﾌﾟｹｰﾌﾞﾙのｸﾚﾋﾞｽと噴射ﾎﾟﾝﾌﾟ側ﾚﾊﾞｰのﾘﾀｰﾝｽﾌﾟﾘﾝｸﾞﾌｯｸとの隙間が不足。ｹｰﾌﾞﾙ調整のﾊﾞﾗﾂｷにより干渉。	ｸﾚﾋﾞｽとﾘﾀｰﾝｽﾌﾟﾘﾝｸﾞﾌｯｸが干渉し、ｽﾛｯﾄﾙ戻り不良により高回転のままのおそれがある。	95/7～96/3	444	440	2	0	0	0
15	大型バス	2	作業依頼書 97/7/4	ｴｱｹﾞｰｼﾞﾎｰｽ干渉不具合	ｴｱｹﾞｰｼﾞ行きｴｱﾎｰｽがｸﾗｯﾁﾍﾟﾀﾞﾙのﾚﾊﾞｰとの隙間余裕が少なく、ﾎｰｽ配管のﾊﾞﾗﾂｷによりｸﾗｯﾁﾍﾟﾀﾞﾙ操作時干渉	ｴｱが漏れて制動力低下のおそれがある。	96/10～'97/3	165	160	3	0	0	0
16	大型バス	2	作業依頼書 97/7/4	ｴｱｽﾌﾟﾘﾝｸﾞﾌﾞﾗｹｯﾄ溶接不具合	ｴｱｽﾌﾟﾘﾝｸﾞﾌﾞﾗｹｯﾄの溶接不良 ﾌﾞﾗｹｯﾄ内側の隅肉溶接欠落	ｴｱｽﾌﾟﾘﾝｸﾞﾌﾞﾗｹｯﾄの溶接が剥離し脱落するおそれがある。	96/10～97/3	17	17	1	0	0	0
17	大型バス	2	作業依頼書 97/7/4	ﾌｨﾝｶﾞｰ式ﾁｪﾝｼﾞﾚﾊﾞｰﾌﾞﾗｹｯﾄ溶接不具合	ﾌｨﾝｶﾞｰﾁｪﾝｼﾞﾚﾊﾞｰﾌﾞﾗｹｯﾄの溶接不良	ﾌﾞﾗｹｯﾄ溶接部破断し、ﾁｪﾝｼﾞﾚﾊﾞｰ操作不能となるおそれがある。	97/2～97/3	58	58	3	0	0	0
18	大型バス	2	作業依頼書 97/7/4	ｴｱﾀﾝｸﾌﾞﾗｹｯﾄ溶接不具合	ｴｱﾀﾝｸﾌﾞﾗｹｯﾄの溶接不良	ﾌﾞﾗｹｯﾄ溶接部が脱落してｴｱ漏れ制動力低下のおそれがある。	96/10～97/5	208	200	2	0	0	0
19	大型バス	2	作業依頼書 99/6/28	ﾌﾛﾝﾄ右側ﾌﾞﾚｰｷﾎｰｽとﾄﾞﾗｯｸﾞﾘﾝｸ干渉	ﾎｰｽ組付け作業における適正方向確保ﾌﾞﾗｹｯﾄの組付け指示不徹底	車体ﾊﾞｳﾝﾄﾞ時にﾌﾞﾚｰｷﾎｰｽがﾄﾞﾗｯｸﾞﾘﾝｸに干渉しﾎｰｽ穴明きとなり、液漏れのおそれがある。	96/10～99/1	87	87	3	0	0	0
20	中型バス	2	作業依頼書 96/10/15	ﾌｨﾝｶﾞｰ式ABS付車ｼｬｼﾊｰﾈｽ不具合	ｼｬｼｰﾊｰﾈｽが配索不良のため、ﾎﾞﾃﾞｰ搭載時にｼｬｼｰﾌﾚｰﾑとﾎﾞﾃﾞｰ（仕切板、保護ｶﾊﾞｰ）との間に噛みこみ	ﾊｰﾈｽ被覆が損耗し、最悪の場合はｼｮｰﾄしてﾊｰﾈｽ焼損し火災のおそれがある。	94/2～96/6	254	250	3	0	0	2

(2)一般案件（4件）

No	対象車種	優先度	関係書類発行日	項目	不具合原因	不具合事象	製造 期間	対象台数	登録台数（推定）	商連書情報			
										不具合件数	人身	物損	火災
21	大型トラック	2		ｸﾗｯﾁﾚﾘｰｽﾞﾌｫｰｸﾚﾊﾞｰｷｰ溝破損	加工不良（ｷｰ溝隅Rのｽﾍﾟｯｸ外れ）による耐久強度不足	ｸﾗｯﾁ切れ不良 走行不能	95/3～	約20,000	19,500	101	0	0	0
22	大型トラック 大型バス	2		6M7燃料ﾊﾟｲﾌﾟ亀裂（ｸﾗﾝﾌﾟ脱落）	･燃料ﾊﾟｲﾌﾟ形状不良やｸﾗﾝﾌﾟ取付ﾌﾞﾗｹｯﾄ強度不足によりﾌﾞﾗｹｯﾄ破損 ･ｸﾗﾝﾌﾟﾎﾞﾙﾄ締付ﾄﾙｸ不足によりｸﾗﾝﾌﾟ脱落	燃料ﾊﾟｲﾌﾟ亀裂、燃料漏れ	00/1～02/6	12,778	11,700	14	0	0	0
23	大型トラック	2	作業依頼書 99/11/15	8M22燃料ﾊﾟｲﾌﾟ燃料洩れ （ｸﾗﾝﾌﾟﾎﾞﾙﾄ折損）	･高圧ﾊﾟｲﾌﾟ及びﾌﾞﾗｹｯﾄの寸法精度不良によりｸﾗﾝﾌﾟﾎﾞﾙﾄが折損、ﾊﾟｲﾌﾟ亀裂 ･噴射ﾊﾟｲﾌﾟｸﾗﾝﾌﾟ個所不適切	燃料ﾊﾟｲﾌﾟ亀裂、燃料漏れ	96/6～99/4	883	860	34	0	0	0
24	大型トラック	2		8M22ｺﾓﾝﾚｰﾙ高圧ﾊﾟｲﾌﾟ亀裂 （ｸﾗﾝﾌﾟﾎﾞﾙﾄ切損対策後の不具合）	高圧ﾊﾟｲﾌﾟｸﾗﾝﾌﾟ締付ﾄﾙｸ不足によりﾊﾟｲﾌﾟｸﾗﾝﾌﾟ脱落	燃料ﾊﾟｲﾌﾟ亀裂、燃料漏れ	96/6～02/6	1,676	1,600	15	0	0	0

１０２案件の詳細リスト

別紙 1
2005.2.2

2. サービスキャンペーン案件

(1) 指示改修 (2件)

No	対象車種	関係書類発行日	項目	不具合原因	不具合事象	市場措置要否の判断理由
25	大型バス	指示改修依頼書 98/4/17	ﾌｨﾝｶﾞｰｺﾝﾄﾛｰﾙﾄﾗﾝｽﾐｯｼｮﾝ不具合	ECUﾛｼﾞｯｸ不良	2速にｼﾌﾄ後、発進のためにｸﾗｯﾁﾍﾟﾀﾞﾙを戻すと、ﾁｪﾝｼﾞﾚﾊﾞｰがNとなる場合がある	ｼﾌﾄﾚﾊﾞｰをｹﾞｰﾄに入れ直すか、ｸﾗｯﾁﾍﾟﾀﾞﾙを再度踏むと通常状態に復帰し、走行には問題ないが商品性向上のためﾛｼﾞｯｸ変更の措置検討中。
26	大型バス	指示改修作業依頼書 98/9/1	ﾌﾛﾝﾄｼｮｯｸｱﾌﾞｿｰﾊﾞ ﾌﾞｯｼｭ抜け出し	こじりに対するﾌﾞｯｼｭ剛性過大	ﾌﾞｯｼｭ抜け出し ｱﾌﾞｿｰﾊﾞ取り付け下部破損	ｱﾌﾞｿｰﾊﾞが破損の場合には、乗り心地は悪化するが、走行は可能。不具合は、定期点検･車検点検時に確認されると考えるが、市場措置を検討する。

(2)一般案件 (2件)

No	対象車種	関係書類発行日	項目	不具合原因	不具合事象	市場措置要否の判断理由
27	大型トラック	作業依頼書 97/10/20	6D40，6D24ﾄｰｼｮﾅﾙﾀﾞﾝﾊﾟ破損	ｺﾞﾑの熱劣化	異音 Vﾍﾞﾙﾄ切損 冷却水漏れ	不具合発生時にはｴﾝｼﾞﾝ異音･振動で予見性はあるが、市場措置を検討する。
28	大型トラック 大型バス	作業依頼書 97/8/28	8M2、6D4ﾛｰﾗﾀﾍﾟｯﾄ摩耗	ｴﾝｼﾞﾝｵｲﾙ劣化に対する余裕不足	異音･出力不足	不具合発生時にはｴﾝｼﾞﾝ異音･出力不足で予見性はあるが、市場措置を検討する。

１０２案件の詳細リスト

別紙 1
2005.2.2

3．サービスキャンペーン相当案件
(1) 指示改修 (４５件)

No	対象車種	関係書類発行日	項目	不具合原因	不具合事象	市場措置要否の判断理由
29	大型トラック	作業依頼書 94/12/23	①ｴｷｿﾞｰｽﾄﾏﾆﾎｰﾙﾄﾞｶﾊﾞｰ欠品 ②ﾊﾝﾄﾞﾌﾞﾚｰｷﾘﾝｸ支持ﾎﾞﾙﾄ締めすぎ	①取り付け忘れ ②過大締め付け	①ｶﾊﾞｰの欠品 ②過大締付けによるﾎﾞﾙﾄ折損	①整備容易化のための部品であり、周辺にもに可燃物なく問題ないと考える。 ②過大締付け検証結果、2倍の締付け力でも破損はなく強度確保されており、問題ないと考える。
30	大型トラック	作業依頼書 95/3/21	ABSｺﾝﾄﾛｰﾗ不具合	ECUﾛｼﾞｯｸ不良	始動時にｱﾗｰﾑﾗﾝﾌﾟが点灯したまま消えなくなる時があり、その場合はABS機能が停止状態となる。	ＡＢＳは作動しないが、通常のﾌﾞﾚｰｷは正常に作動する。 不具合発生した場合は、ｴﾝｼﾞﾝ始動時に警告灯が点灯し認知できるので、現在は是正されていると考える。
31	大型トラック	作業依頼書 96/5/27	EZGO(坂道発進補助装置) ECU　不具合	ECUﾛｼﾞｯｸ不良	傾斜地でﾌﾞﾚｰｷを踏まずにｴﾝｼﾞﾝ始動しながら、駐車ﾌﾞﾚｰｷﾚﾊﾞｰを戻した時、車両が動き出した場合に警告灯が点灯	一般的でない始動操作によるｴﾝｼﾞﾝ始動直後に発生するのみ。 通常のﾌﾞﾚｰｷは正常に作動する。 不具合は、警告灯が点灯し認知できるので、現在は是正されていると考える。
32	大型トラック	作業依頼書 96/8/22	INOMAT(機械式自動ﾄﾗﾝｽﾐｯｼｮﾝ)　不具合	ECUﾛｼﾞｯｸ不良	ﾌｪｲﾙｾｰﾌ機能に不備があり、ある条件でｾﾝｻ類や通信系に失陥があった場合、ｴﾝｼﾞﾝｵｰﾊﾞｰﾗﾝまたは変速不能となる。	限られた条件下でのｾﾝｻ類の失陥時に発生する事象であり、発生確率は極めて少ないと考える。
33	大型トラック	作業依頼書 96/11/27	ﾄﾗｸﾀNR付車　ｴﾝｽﾄ	ECUﾛｼﾞｯｸ不良	NR制限車速以上で走行中にｸﾗｯﾁを切った場合、ｱｸｾﾙﾍﾟﾀﾞﾙを踏み込むとｴﾝｽﾄする	NR設定車速以上でｸﾗｯﾁを踏み込んだ際に発生するが、ｸﾗｯﾁを離すと正常復帰する不具合で、通常の使用条件では発生しない。 再始動可能であり、問題無いと考える。
34	大型トラック	指示改修依頼書 97/2/5	電子ｶﾞﾊﾞﾅ車　登坂時出力不足	ECUﾛｼﾞｯｸ不良	ｱｸｾﾙﾍﾟﾀﾞﾙ全開加速時の出力不足	排出ｶﾞｽへの影響はない。また加速時の出力不足であり問題無いと考える。
35	大型トラック	作業依頼書 97/9/8	ｴﾝｼﾞﾝﾊｰﾈｽ熱害	ﾊｰﾈｽの耐熱性不足	ｱﾗｰﾑ点灯	ｴﾝｼﾞﾝｽﾄｰﾙの可能性は極めて低く、ｱﾗｰﾑ点灯で予見性あり、問題無いと考える。
36	大型トラック	作業依頼書 97/9/8	ｴｱﾄﾞﾗｲﾔ～ｶﾞﾊﾞﾅ間のｴｱ配管折損	旋回時の繰返し変形入力によりﾊﾟｲﾌﾟ折損	ｶﾞﾊﾞﾅが作動する時にｴｱ漏れが発生	不具合が発生した場合でも、ｴｱﾀﾝｸ圧力は確保され、ﾌﾞﾚｰｷ作動には問題なく、安全上問題無い。
37	大型トラック	作業依頼書 97/9/8	ｴｷｿﾞｰｽﾄﾌﾞﾚｰｷｼﾘﾝﾀﾞ廻り 熱害	高負荷走行時、ｴﾝｼﾞﾝﾙｰﾑ内右側の雰囲気温度が高くなり、内部部品が損傷	ｴｷﾌﾞﾚｼﾘﾝﾀﾞから異音発生し、ｴｷﾌﾞﾚ作動不能となる	ｴｷﾌﾞﾚ不作動となった場合でも、主ﾌﾞﾚｰｷは正常であり、直接事故に至るおそれはない。
38	大型トラック	作業依頼書 97/9/8	冷却水温上昇	冷却系余裕不足 ﾗｼﾞｴｰﾀｺｱ前面ごみ・埃付着で冷却能力低下	長い上り坂を走行時、冷却水温がﾚｯﾄﾞｿﾞｰﾝ直前まで上昇、またはﾚｯﾄﾞｿﾞｰﾝに入りｵｰﾊﾞｰﾋｰﾄ気味となる	冷却水温の上昇は水温計で確認可能であり問題は無いと考える。
39	大型トラック	作業依頼書 97/9/8	ｴﾝｼﾞﾝ冷却水管とｴﾝｼﾞﾝﾏｳﾝﾄｻﾎﾟｰﾄﾌﾞﾗｹｯﾄ取付けﾎﾞﾙﾄ干渉	隙間余裕少	水管とｴﾝｼﾞﾝﾏｳﾝﾄﾌﾞﾗｹｯﾄが干渉	干渉しても、変形するのみで水漏れしないので問題は無いと考える。
40	大型トラック	作業依頼書 97/9/8	ｸﾗｯﾁﾚﾘｰｽﾞﾍﾞｱﾘﾝｸﾞ抜け出し	ｲﾝﾌﾟｯﾄｼｬﾌﾄの表面が粗く、ﾌﾞｯｼｭ潤滑不良になった場合などによりﾌﾞｯｼｭが異常摩耗する。	ﾌﾞｯｼｭが異常摩耗し、場合によっては抜け出したﾌﾞｯｼｭがﾄﾗﾝｽﾐｯｼｮﾝｲﾝﾌﾟｯﾄｼｬﾌﾄ支持部のｵｲﾙｼｰﾙに噛みこみﾄﾗﾝｽﾐｯｼｮﾝｵｲﾙ漏れが発生する	初期不具合であり、不具合発生時には油漏れで検知可能。更に、ｸﾗｯﾁ交換時には対策品のｸﾗｯﾁが組まれるため、既に定期点検などで是正されていると考える。
41	大型トラック	作業依頼書 97/9/8	ｸﾗｯﾁﾍﾟﾀﾞﾙﾌｨｰﾘﾝｸﾞ不良	ｸﾗｯﾁﾌﾞｰｽﾀへの供給圧力（空気）が高いとｸﾗｯﾁﾌﾞｰｽﾀの給排気通路ｱﾝﾊﾞﾗﾝｽによる振動が、ｸﾗｯﾁﾌﾙｰﾄﾞﾗｲﾝの液圧変動となりｸﾗｯﾁﾍﾟﾀﾞﾙ振動発生となる	ｸﾗｯﾁﾍﾟﾀﾞﾙ操作時にﾍﾟﾀﾞﾙ振動発生	ﾌｨｰﾘﾝｸﾞの問題であり、走行上の問題はないと考える。
42	大型トラック	指示改修作業依頼書 98/6/4	ﾗｼﾞｴｰﾀ下側ﾎｰｽ亀裂	ｴﾝｼﾞﾝとﾗｼﾞｴｰﾀとの相対変位に対するﾎｰｽの柔軟性不足	ﾎｰｽｸﾗﾝﾌﾟに沿ってﾎｰｽに亀裂が入り冷却水漏れが発生。	ｳｫｰﾀﾚﾍﾞﾙｾﾝｻが装着されており、冷却水量不足は日常点検で確認できるので問題はないと考える。

１０２案件の詳細リスト

別紙 1
2005.2.2

43	大型トラック	指示改修作業依頼書 98/6/4	ﾄﾗﾝｽﾐｯｼｮﾝ　ｾﾚｸﾄﾘﾝｸﾎﾞｰﾙｼﾞｮｲﾝﾄ破損	ﾀﾞｽﾄﾌﾞｰﾂが、耐熱性不足のため熱害で破損。砂・ﾀﾞｽﾄ浸入により、ｼﾞｮｲﾝﾄﾎﾙﾀﾞｰ部が摩耗してｶﾞﾀが発生しｼﾞｮｲﾝﾄ脱落に至る。	ｾﾚｸﾄﾛｯﾄﾞﾎﾞｰﾙｼﾞｮｲﾝﾄが脱落し、ｾﾚｸﾄ操作不能となる。 (3、4、5、6速のｼﾌﾄ操作は可能)	ﾎﾞｰﾙｼﾞｮｲﾝﾄが脱落してもｼﾌﾄ操作は可能であり3,4,5,6速での走行は可能で、不具合に至る前にﾎﾞｰﾙｼﾞｮｲﾝﾄﾎﾙﾀﾞｰ部の摩耗によるｶﾞﾀでｼﾌﾄﾌｨｰﾘﾝｸﾞ' が悪化し認知されるが、今後の市場情報を注視する。
44	大型トラック	指示改修依頼書 98/6/4	ﾄﾗｸﾀ　ﾌﾞｰｽﾄ圧ｾﾝｻﾊｰﾈｽｼｮｰﾄ 走行中にｴﾝｼﾞﾝ制御ﾗﾝﾌﾟ点灯	組み立て不良	ｱﾗｰﾑ点灯、ﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟﾓｰﾄﾞで制御するためｴﾝｼﾞﾝ出力低下	出力不足となるが、ｱﾗｰﾑ点灯で検知可能であり、問題はないと考える。
45	大型トラック	指示改修依頼書 98/6/4	噴射管ｼｰﾄ面段付きによる燃料洩れ不具合	噴射管過締め付けによるｼｰﾄ面段付品を再使用した場合ｼｰﾙ不良となり燃料漏れ、ﾌﾛｰﾀﾞﾝﾊﾞ作動によりｴﾝｼﾞﾝ出力が低下	ﾌﾛｰﾀﾞﾝﾊﾞ作動による出力不足、ｴﾝｼﾞﾝ振動大	不適切な整備が原因であり、正規に整備されていれば問題はないと考える。
46	大型トラック	指示改修依頼書 98/6/4	ﾄﾗｸﾀ　ﾌｧﾝﾍﾞﾙﾄ切損	ﾍﾞﾙﾄ張り過ぎ	ﾍﾞﾙﾄ折損により水温上昇、ｱﾗｰﾑ点灯	ﾍﾞﾙﾄ点検は日常点検の項目であり、正規に整備されていれば問題はないと考える。
47	大型トラック	指示改修依頼書 98/6/4	ｻﾌﾞﾗｲﾎﾟﾝﾌﾟPCV(圧力吐出弁) 不良	PCVの溶接強度不足	出力不足	出力低下のみであり、問題はないと考える。
48	大型トラック	指示改修依頼書 98/10/27	ｸﾗｯﾁ摩耗ｲﾝｼﾞｹｰﾀ不具合	ｸﾗｯﾁﾌﾞｰｽﾀ取り付け面の精度悪く、ｲﾝｼﾞｹｰﾀ点灯までのﾌﾟｯｼｭﾛｯﾄﾞ後退代が増大したため、摩耗ｲﾝｼﾞｹｰﾀ点灯前にｸﾗｯﾁ摩耗が調整点に到達、すべりが発生した	ｸﾗｯﾁﾃﾞｨｽｸ摩耗調整検知ﾗﾝﾌﾟ点灯前にｸﾗｯﾁﾃﾞｨｽｸ摩耗調整時期となり、ｸﾗｯﾁすべりが発生する	ｸﾗｯﾁ摩耗の調整の問題であり、その後詳細な調整要領を発行済み。定期点検などで調整され正規の状態に是正されていると考える。
49	大型トラック	作業依頼書 99/6/2	ｺﾝｸﾘｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟ架装車　ｴﾌｫｰﾄｾﾝｻ不具合	ｴﾌｫｰﾄｾﾝｻｽｲｯﾁを押すｱｯﾊﾟｰﾌﾟﾚｰﾄの取り付けにｶﾞﾀがあるため、ｽｲｯﾁが作動しないことがある。	ｴﾌｫｰﾄｾﾝｻのｽｲｯﾁがONにならないため、ﾛｯｸﾌﾟﾚｰｷが作動しない	駐車能力は確保されており、当該ﾌﾟﾚｰｷが作動しない場合はｺﾝｸﾘｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟの作業ができず、問題はないと考える。
50	大型トラック	ー	ｴｱｻｽ圧力ｾﾝｻ防水性不良	ｺﾈｸﾀの防水性不良	車高上昇によりｼｮｯｸｱﾌﾞｿｰﾊﾞ破損、ｳｫｰﾆﾝｸﾞﾗﾝﾌﾟ点灯	減衰機能は低下するが走行可能。 警告灯と音声ｱﾗｰﾑにより検知可能であり、安全に退避可能と考える。
51	大型トラック	指示改修依頼書 99/8/26	ｳｫｰﾀﾎﾟﾝﾌﾟ　ﾌﾟｰﾘ破損	ﾌﾟｰﾘ内部の補強ﾘﾑが形状不良によりﾌﾟｰﾘ本体と密着不良となり、ﾌﾟｰﾘ本体に過大な力がかかり破損	異音発生	ﾌﾟｰﾘ破損による異音とｵﾙﾀﾈｰﾀ不作動によるﾁｬｰｼﾞﾗﾝﾌﾟ点灯から検知可能。ｴﾝｼﾞﾝｵｰﾊﾞｰﾋｰﾄに至る前に安全に退避可能なことから、問題はないと考える。
52	中型トラック	作業依頼書 98/7/16	ﾗｼﾞｴｰﾀ下側ﾎｰｽ抜け	ﾎｰｽ内面の離型剤が未除去のままのものがあり、ﾎｰｽが抜けやすくなった	ﾗｼﾞｴｰﾀ下側ﾎｰｽが抜け、冷却水漏れ。 冷却水量ｳｫｰﾆﾝｸﾞﾗﾝﾌﾟが点灯し、冷却水温が上昇。	早期に発生する不具合であり、定期点検･車検点検時に確認、良品に交換され是正されていると考える。 尚、ｳｫｰﾀﾚﾍﾞﾙｾﾝｻが装着されており水量不足のｳｫｰﾆﾝｸﾞ点灯で、冷却水温の上昇については水温計で検知でき、退避可能。
53	中型トラック	指示改修依頼書 99/10/8	冷凍機ｺﾝﾌﾟﾚｯｻﾌﾞﾗｹｯﾄ不具合	ﾌﾞﾗｹｯﾄ溶接冶具不良により、溶接歪が発生し、ｺﾝﾌﾟﾚｯｻ取り付け不能に至る	冷凍機ｺﾝﾌﾟﾚｯｻ組付け不能	納入前に冷凍機ｺﾝﾌﾟﾚｯｻを搭載する段階で判明する内容であり、既に是正されている。
54	中型トラック	作業依頼書 00/2/8	PTO (ﾊﾟﾜｰﾃｲｸｵﾌ) 付ﾄﾗﾝｽﾐｯｼｮﾝのﾌﾛﾝﾄﾍﾞｱﾘﾝｸﾞｵｲﾙ漏れ	ｵｲﾙｼｰﾙｲﾝｽﾄｰﾗ形状不適切によるｵｲﾙｼｰﾙ装着不良	新車納入点検時、ｸﾗｯﾁﾊｳｼﾞﾝｸﾞよりｵｲﾙ漏れ	油漏れはｵｲﾙｼｰﾙ装着不良に起因し、早期に不具合が発生し、既に是正されていると考える。
55	中型トラック	作業依頼書 00/3/9	INOMAT不具合	ﾌﾞｰｽﾀｽﾄﾛｰｸ過大によるｸﾗｯﾁﾀﾞｲﾔﾌﾗﾑｽﾌﾟﾘﾝｸﾞ折損	ｸﾗｯﾁ滑り、切れ不良	早期不具合であり、不具合あるものについては、定期点検などで調整されており問題はないと考える。
56	小型トラック	指示改修作業依頼書 97/9/9	ｴｱｻｽﾍﾟﾝｼｮﾝ用ｺﾝﾌﾟﾚｯｻ焼付き	ﾛｰｴｱﾌﾟﾚｯｼｬｽｲｯﾁの誤設定	後々非駆動軸の緩衝機能不良	本不具合発生時もﾌﾞﾚｰｷなど他のｼｽﾃﾑには影響なく、乗り心地は悪化するが、走行は可能。 不具合は、警告灯が点灯し認知できるので、日常点検にて確認･是正されており、問題はないと考える。
57	小型トラック	作業依頼書 99/1/27	ﾃﾞﾌｷｬﾘﾔｵｲﾙ漏れ	ﾃﾞﾌｷｬﾘｱの肉厚減少部でﾎﾞﾙﾄねじ穴先端が内部と貫通	ﾃﾞﾌのﾍﾞｱﾘﾝｸﾞﾘﾃｰﾅ取付ﾎﾞﾙﾄ座部分から少量のｵｲﾙ漏れ	初期にｵｲﾙ漏れが判明するので、定期点検などで不具合有れば容易に発見可能であり、問題はないと考える。
58	小型トラック	作業依頼書 1999/8/8	ﾊﾞｯﾃﾘ上がり	誤配線による放電	長期駐車後ｴﾝｼﾞﾝ始動不能	長期在庫･休車時のﾊﾞｯﾃﾘ上りであり、納車前点検、始業点検時に発見できるので、問題はないと考える。

１０２案件の詳細リスト

別紙 1
2005.2.2

59	小型トラック	作業依頼書 99/10/1	特装車　ｷｬﾌﾞﾊﾞｯｸ　ｴﾝｼﾞﾝｺﾝﾄﾛｰﾙ不具合	架装側のｹｰﾌﾞﾙ長さ調整不良によるｱｸｾﾙﾘﾝｸﾚﾊﾞｰの戻り不良	特装用のｷｬﾌﾞﾊﾞｯｸｺﾝﾄﾛｰﾙﾘﾝｸﾚﾊﾞｰの戻り不良により、ｴｷｿﾞｰｽﾄﾌﾞﾚｰｷ作動ﾗﾝﾌﾟの不灯で容易に認知でき、問題はないと考える。	不具合は、早期に発生するので、ｴｷｿﾞｰｽﾄﾌﾞﾚｰｷ作動ﾗﾝﾌﾟの不灯で容易に認知でき、問題はないと考える。
60	大型バス	指示改修作業依頼書 94/2/21	乗心地不良	・ｻｽﾍﾟﾝｼｮﾝ類のﾌﾞｯｼｭのばね定数過大 ・ｼｮｯｸｱﾌﾞｿｰﾊﾞ減衰力過大	乗り心地不良（継ぎ目路）	ﾌｨｰﾘﾝｸﾞ上の問題であり、走行に支障はなく容易に認知でき、問題はないと考える。
61	大型バス	作業依頼書 97/6/11	駆動系異音	ｴﾝｼﾞﾝの回転速度変動によりﾃﾞﾌのｽﾙｰｼｬﾌﾄ部ﾍﾘｶﾙｷﾞﾔから歯打ち音が発生	走行時にﾃﾞﾌより異音	異音によるﾌｨｰﾘﾝｸﾞの問題であり、車両の走行、安全性、耐久性には影響がないと考える。
62	大型バス	作業依頼書 97/7/4	MUT（ﾏﾙﾁﾕｰｽﾃｽﾀ）通信ﾊｰﾈｽ不具合	MUT ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｻﾌﾞﾊｰﾈｽ欠品	整備点検時にMUT通信によるｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝが不可能	ﾂｰﾙの不具合であり、走行には問題はないと考える。
63	大型バス	作業依頼書 97/7/4	ｽﾀｰﾀS信号ﾊｰﾈｽ不具合	ｴﾝｼﾞﾝの逆回転防止用ｻﾌﾞﾊｰﾈｽ欠落	ｴﾝｼﾞﾝ停止後、ｴﾝｼﾞﾝ再ｽﾀｰﾄには一旦ｽﾀｰﾀｰｷｰをｵﾌにすることが必要	ｴﾝｼﾞﾝ再始動時、ｷｰをｵﾌに入れ直すと通常状態に戻るので問題はないと考える。
64	大型バス	作業依頼書 97/7/4	ｴｱｺﾝ用ｱｲﾄﾞﾙｱｯﾌﾟﾓｰﾀﾌﾞﾗｹｯﾄ溶接不具合	ｱｲﾄﾞﾙｱｯﾌﾟｿﾚﾉｲﾄﾞﾌﾞﾗｹｯﾄの溶接不良	ｱｲﾄﾞﾙｱｯﾌﾟﾓｰﾀｰﾌﾞﾗｹｯﾄが破断	ｴｱｺﾝ性能に関する商品性であり、走行には問題ないと考える。
65	大型バス	作業依頼書 97/7/4	ﾍｯﾄﾞﾗﾝﾌﾟﾋｭｰｽﾞ不具合	ﾍｯﾄﾞﾗﾝﾌﾟﾊｲﾋﾞｰﾑ用ﾋｭｰｽﾞの容量不足。10Aに対し5Aを誤設定	ﾋｭｰｽﾞ余裕が少ない	使用容量不足であり早目に断線し、点検や車検で是正されており、問題ないと考える。
66	大型バス	作業依頼書 97/10/30	ﾊﾞｽﾎﾞﾃﾞｰのﾛﾜｰﾋﾟﾗｰ溶接不具合	ｽﾎﾟｯﾄ溶接不十分	異音	車体異音発生で容易に検知可能であり、問題はないと考える。
67	大型・中型バス	指示改修作業依頼書 98/7/16	ISS（ｱｲﾄﾞﾘﾝｸﾞｽﾄｯﾌﾟ＆ｽﾀｰﾄｼｽﾃﾑ）運行解析装置不具合	ﾊｰﾈｽの製造不良	ﾃﾞｰﾀの適切な収集が不可能	ｱｲﾄﾞﾘﾝｸﾞｽﾄｯﾌﾟ頻度の計測装置であり、走行、安全上の問題はないと考える。
68	大型・中型バス	指示改修作業依頼書 99/2/19	ISS運行解析装置不具合	車速ﾊﾟﾙｽｺﾝﾊﾞｰﾀの回路不具合	ﾃﾞｰﾀの適切な収集が不可能	全車改修済み。
69	大型バス	作業依頼書 99/4/6	ｴｷｿﾞｰｽﾄﾊﾟｲﾌﾟのｸﾗﾝﾌﾟﾎﾞﾙﾄ脱落	排気管ﾌﾞﾗｹｯﾄ結合部に挟み込んでいる断熱材がへたり、ﾎﾞﾙﾄの軸力が低下し、緩み・脱落に至る。	ﾊﾟｲﾌﾟｸﾗﾝﾌﾟﾎﾞﾙﾄ脱落。	排気管損傷の不具合情報はない。不具合は、定期点検・車検点検時に確認され、正規に締付けられて是正されていると考える。
70	小型バス	作業依頼書 97/1/27	ﾌﾟﾚﾋｰﾀ配管誤組によるﾋｰﾀ効き不良	ﾌﾟﾚﾋｰﾀ配管誤組	ﾋｰﾀ効き不良	ﾋｰﾀ性能に関する商品性であり、問題はないと考える。
71	小型バス	作業依頼書 98/6/9	樹脂製ﾏｯﾄﾞｶﾞｰﾄﾞが路面に干渉	ﾏｯﾄﾞｶﾞｰﾄﾞ先端の路面接触音	異音発生	ﾏｯﾄﾞｶﾞｰﾄﾞが路面に接触して異音を発生する商品性であり、問題はないと考える。
72	小型バス	作業依頼書 99/10/1	A/T（自動ﾄﾗﾝｽﾐｯｼｮﾝ） ｵｲﾙﾌｨﾗｰﾁｭｰﾌﾞｵｲﾙ漏れ	A/Tｴｱﾌﾞﾘｰｻﾞ能力不足のため、ﾌｨﾗｰﾁｭｰﾌﾞの空気穴からｵｲﾙ漏れ	長期間駐車後、ｴﾝｼﾞﾝ始動時にA/Tｵｲﾙﾌｨﾗｰﾁｭｰﾌﾞよりｵｲﾙ漏れ	少量のｵｲﾙ漏れであるが容易に発見が可能であり、定期点検などで是正されており、問題はないと考える。
73	大型トラック	作業依頼書 97/9/8	ﾌｧﾝｶｯﾌﾟﾘﾝｸﾞ破損	ﾌｧﾝｶｯﾌﾟﾘﾝｸﾞｼｬﾌﾄ製造時の高周波焼入れ不良（芯部まで高周波焼入れを実施）によるｼｬﾌﾄ強度不足。	ｼｬﾌﾄが亀裂・破断し、ﾌｧﾝ脱落によりﾗｼﾞｴｰﾀｺｱが破損、冷却水漏れに至る。	ﾗｼﾞｴｰﾀの一部破損であり、多量の冷却水漏れではなく検知後は安全に退避可能。

１０２案件の詳細リスト

別紙 1
2005.2.2

(2)一般案件（１６件）

No	対象車種	関係書類発行日	項目	不具合原因	不具合事象	市場措置要否の判断理由
74	中型トラック 小型トラック 小型バス		4M5(ｶﾑｼｬﾌﾄ)ｻｰｷｭﾗﾊﾞｯｷﾝから油漏れ	①ｻｰｷｭﾗﾊﾞｯｷﾝのｼｰﾙ剤塗布量不足 ②ｻｰｷｭﾗﾊﾞｯｷﾝｺﾞﾑの耐熱性不足	ｵｲﾙにじみ	ｵｲﾙにじみ、見栄え不良の苦情であり、性能上の問題はないと考える。
75	大型トラック		6M7ﾌﾗｲﾎｰﾙﾘﾝｸﾞｷﾞﾔ摩耗，破損	①ｴﾝｼﾞﾝ惰性回転中の始動時に、ｽﾀｰﾀが作動し発生したﾘﾝｸﾞｷﾞﾔ端面への傷にｽﾀｰﾀﾋﾟﾆｵﾝｷﾞﾔが引っ掛かる ②ﾋﾟﾆｵﾝｷﾞﾔ噛合い時の抵抗に対しｽﾀｰﾀ容量が相対的に不足	始動困難	特殊条件下（ｴﾝｼﾞﾝ惰性回転中のｽﾀｰﾀ始動操作）で発生したﾘﾝｸﾞｷﾞﾔ端面傷に起因する不具合で、正規始動操作が実施されていれば不具合に至ることはない。なお、ｽﾀｰﾀ再始動時の注意事項を取り扱い説明書に記載している。今後の市場情報を注視する。
76	中型トラック 中型バス		6M6ｻﾌﾟﾗｲﾎﾟﾝﾌﾟ関係	①製造時異物混入 ②燃料中異物・気泡混入、低粘度燃料、ｵｲﾙ中異物混入、異物詰り、部品・作業不良、誤組、摩耗、等	①燃料にじみ ②始動不良、ｱﾗｰﾑ点灯、出力不足等	① 燃料にじみであり、人身・火災事故に繋がる危険性はないと考える。 ② 不具合現象は多岐に渡るが、何れも人身・火災事故に繋がる危険性はないと考えるが、今後の市場情報を注視する。
77	中型トラック 中型バス		6M6ｲﾝｼﾞｪｸﾀ関係	①ｲﾝｼﾞｪｸﾀｿﾚﾉｲﾄﾞ部のﾊｳｼﾞﾝｸﾞと絶縁ﾅｲﾛﾝ樹脂の隙間にｴﾝｼﾞﾝｵｲﾙが侵入した際、ｵｲﾙ中の水分により絶縁樹脂の絶縁性が低下等。 ②燃料中水分・異物・気泡混入、整備作業不良等	①ｱﾗｰﾑ点灯、異音・振動、出力不足、始動不調 ②ｴﾝｼﾞﾝｵｲﾙに燃料混入、始動不良、出力不足、異音・振動等	①ｲﾝｼﾞｪｸﾀ故障時にはｱﾗｰﾑ点灯、異音・振動や出力不足による予見性があり、正常な気筒により継続運転が可能。 ②不具合現象は多岐に渡るが、何れも人身・火災事故に繋がる危険性はないと考えるが、今後の市場情報を注視する。
78	中型トラック 中型バス		6M6噴射ﾎﾟﾝﾌﾟ関係	①-1ﾀｲﾐﾝｸﾞｺﾝﾄﾛｰﾙﾊﾞﾙﾌﾟのｺｲﾙ皮膜厚さ不足等により絶縁不良が発生し、噴射ﾀｲﾐﾝｸﾞが制御できず ①-2燃料ﾎｰｽ配索不良によりﾎｰｽが折れ曲がり、燃料中に発生した気泡により、ﾀｲﾏﾋﾟｽﾄﾝの制御が不安定になる ②燃料中水分・気泡混入、低粘度燃料、異物噛み込み、組付け不良等	①ｱﾗｰﾑ点灯、異音発生、出力不足等 ②ｵｲﾙにじみ、回転落ち不良、始動不良、ｱﾗｰﾑ点灯、白煙、異音・振動、出力不足等	①不具合が発生した場合はｱﾗｰﾑﾗﾝﾌﾟが点灯、異音発生、出力低下による予見性がある。 ②不具合現象は多岐に渡るが、何れも人身・火災事故に繋がる危険性はないと考える。
				①-1 噴射ﾎﾟﾝﾌﾟ内部部品のﾊﾞﾘ取り不良 ①-2 ECUｴﾗｰ判定時間余裕小 ②噴射ﾎﾟﾝﾌﾟ内のｵｲﾙ油面高さ不良	①ｱﾗｰﾑ点灯、ｴﾝｽﾄ ②ｵｲﾙ消費苦情（約2000km/L）	①ECUがｼｽﾃﾑ異常と判断しｱﾗｰﾑ点灯と同時に燃料噴射を停止させるが、一旦ｷｰｽｲｯﾁをOFFすることで再始動可能であり、実安全上の問題はない。人身・火災事故に繋がる危険性もない。 ②ｵｲﾙ消費の苦情であり、商品性の問題。
79	中型トラック 中型バス		6M6噴射ﾉｽﾞﾙ関係	①ﾉｽﾞﾙﾎﾙﾀﾞの粗材中の不純物を起点に亀裂、及び栓ﾌﾟﾗｸﾞの緩み ②異物詰り、ｶｰﾎﾞﾝ付着、噴孔潰れ、ﾌﾞﾘｯｼﾞﾎﾞﾙﾄ組付け不良、等	①ｴﾝｼﾞﾝｵｲﾙに燃料混入、2次的にﾌﾟﾘｰｻﾞからｵｲﾙ漏れ発生 ②出力不足、異音・振動、ｶﾞｽ漏れ、ｵｲﾙにじみ、ｴﾝｼﾞﾝｵｲﾙ中燃料混入	①ｴﾝｼﾞﾝｵｲﾙに燃料が混入する現象であり、ｵｲﾙﾚﾍﾞﾙﾁｪｯｸ時に検知が可能。燃料混入により油圧低下に至るとｳｫｰﾆﾝｸﾞﾗﾝﾌﾟが点灯するためｴﾝｼﾞﾝ焼付に至る事はない。 ②出力不足や異音・振動等で容易に検知可能である。
80	中型トラック 小型トラック 小型バス		4M5ﾉｽﾞﾙﾎﾙﾀﾞ亀裂	ﾉｽﾞﾙﾎﾙﾀﾞの素材中への不純物混入	ｴﾝｼﾞﾝｵｲﾙに燃料混入、2次的にﾌﾟﾘｰｻﾞからｵｲﾙ漏れ発生	ｴﾝｼﾞﾝｵｲﾙに燃料が混入する現象であり、ｵｲﾙﾚﾍﾞﾙﾁｪｯｸ時に検知が可能。燃料混入により油圧低下に至るとｳｫｰﾆﾝｸﾞﾗﾝﾌﾟが点灯するためｴﾝｼﾞﾝ焼付に至る事はないと考える。
81	中型トラック 小型トラック 小型バス		4M5 V4ﾎﾟﾝﾌﾟｽﾋﾟﾙﾊﾞﾙﾌﾞﾌﾟｯｼｭﾛｯﾄﾞ摩耗	ｽﾋﾟﾙﾊﾞﾙﾌﾞﾌﾟｯｼｭﾛｯﾄﾞの上下作動によりﾛｯﾄﾞ先端が摩耗	回転戻り不良（遅い）ｱｲﾄﾞﾙ回転まで戻らない	ｱｲﾄﾞﾘﾝｸﾞ回転に戻る時間が長くなるﾌｨｰﾘﾝｸﾞ上の問題である。
82	大型トラック 大型バス		6M70ｻﾌﾟﾗｲﾎﾟﾝﾌﾟ不具合	不適燃料の使用により ①吸込み/吐出ﾊﾞﾙﾌﾞの摩耗・固着 ②ﾘﾘｰﾌﾊﾞﾙﾌﾞのﾊﾞﾙﾌﾞｼｰﾄに異物噛みこみ ③ﾌｨｰﾄﾞﾎﾟﾝﾌﾟｼｬﾌﾄの焼付き	①、②始動困難 ③ｴﾝｽﾄ	著しく品質の劣る燃料（潤滑性の低い燃料）やｲﾐﾃｰｼｮﾝ燃料ﾌｨﾙﾀ使用により発生する不具合で、適正な燃料や燃料ﾌｨﾙﾀが使用されていれば不具合に至るおそれはない。 なお、使用燃料については取り扱い説明書にて注意を喚起しているが、今後の市場情報を注視する。
83	大型トラック 大型バス		6M70ｲﾝｼﾞｪｸﾀ不具合	材料特性のばらつきにより強度不足のｼｰﾙﾘﾝｸﾞが破断	ｴﾝｼﾞﾝ振動出力不足	ｲﾝｼﾞｪｸﾀ作動不良発生時にも、正常な気筒により継続運転が可能。ｴﾝｼﾞﾝ振動や出力不足であり、安全上の問題もないと考える。

１０２案件の詳細リスト

別紙 1
2005.2.2

84	大型トラック 中型トラック 大型バス 中型バス		ﾌﾞﾚｰｷﾎｰｽ変形	・ｼｰﾙ不足 ｼｰﾙ部からﾌﾞﾚｰｷ液が滲み、被覆部 に回り込みﾎｰｽに膨らみが生じ、 最悪の場合は被覆が破れ、外部へにじむ。	ﾌﾞﾚｰｷ液にじみ（通常走行は問題無いﾚﾍﾞﾙ）	・ﾌﾞﾚｰｷﾎｰｽはJISその他国際標準に適合した標準品である。 ・本件は、寿命が短い事に対する苦情であり、ﾎｰｽ被覆の破れによる、液にじみは微量であり、制動能力に影響を与えるものではない。 ・定期点検・車検点検時に確認、新品に交換される。
85	小型トラック 小型バス		ABS、EZGOｳｵﾆﾝｸﾞﾗﾝﾌﾟ点灯	ABS＋EZGO一体HUに内蔵されたEZGOの油圧保持ﾊﾞﾙﾌﾞ部のｺﾞﾑｼｰﾄ接着強度不足、又はｼｰﾄ部への異物混入によって発生	ｷｰON時、ABS、及びEZGO警告灯が点灯 EZGO及びABS不作動	不具合発生時、ｷｰONにて、警告灯が点灯し認知される。 ABSは作動しないが、通常のﾌﾞﾚｰｷは正常に作動する。
86	大型バス		ﾘﾔｽﾀﾋﾞﾗｲｻﾞ取り付けﾅｯﾄ脱落	①締め付けﾄﾙｸ不足 ②同部締め付け座面に塗膜付着	異音 ﾘﾝｸ外れによりﾛｰﾘﾝｸﾞ大	走行不能に至ることはなく、最大安定傾斜角は保安基準を満足する。 当該部位は定期点検項目であり、定期点検・車検時確認される。
87	大型バス		ｽﾚｰﾌﾞﾚﾊﾞｰに水浸入	ｽﾚｰﾌﾞﾚﾊﾞｰｼｬﾌﾄｼｰﾙ部のｼｰﾙ性不足により水浸入・発錆	ﾊﾝﾄﾞﾙｶﾞﾀつき ﾊﾝﾄﾞﾙ操作力若干増加	操舵は可能であり、走行不能に至る事はない。ﾊﾝﾄﾞﾙ操作時のｶﾞﾀ、及び走行時の異音で容易に認知できる。当該部位は、定期点検項目であり、定期点検・車検時確認される。
88	中型トラック		ﾊﾟﾜｰｳｨﾝﾄﾞ作動不良	ｻｯｼｭ精度不良、ﾗﾝﾁｬﾝﾈﾙ耐摩耗性不足、ｶﾞﾗｽ前後ｶﾞﾀ大、組立ﾊﾞﾗﾂｷ	摺動抵抗増大し、ﾊﾟﾜｰｳｨﾝﾄﾞ作動停止	車両の安全性を損なったり、人身事故に繋がる危険性はないと考える。
89	小型トラック		ABS付車、ﾌﾞﾚｰｷﾌｨｰﾘﾝｸﾞ苦情	非常に稀に、ﾌﾞﾚｰｷ鳴き発生時、瞬間的にABSが作動	ﾌﾞﾚｰｷﾌｨｰﾘﾝｸﾞ悪化	ﾌﾞﾚｰｷ鳴きにより、ABSが瞬間的に作動したという、ﾌｨｰﾘﾝｸﾞ上の問題であり、ﾌﾞﾚｰｷ性能に影響ない。

１０２案件の詳細リスト

別紙 1
2005.2.2

4．設計･製造に起因せず措置しない案件
(1)指示改修に該当する案件はありません
(2)一般案件（１６件）

No	対象車種	関係書類発行日	項目	不具合原因	不具合事象	市場措置要否の判断
90	小型トラック 小型バス		駐車ﾌﾞﾚｰｷﾚﾊﾞｰﾗﾁｪｯﾄ部摩耗	駐車ﾌﾞﾚｰｷ解除時に、ﾉﾌﾞを回しきらずにﾉﾌﾞを押し込む操作の繰り返し	駐車ﾌﾞﾚｰｷﾚﾊﾞｰを操作してもﾛｯｸしない	取扱い説明書通り使用すれば、駐車ﾌﾞﾚｰｷﾗﾁｪｯﾄ部の異常摩耗はおこらない。また、駐車ﾌﾞﾚｰｷの引き代や効き具合は、日常(運行前)点検、及び 6ヶ月ごとの定期点検項目となっている。
91	大型バス 中型バス		ﾋｰﾀｰからの温風により火傷	①着席時に荷物を足の前に置いたため、足（素足）の置き場が座席下のﾋｰﾀ吹出口直前になり、足に長時間温風が当たった ②養護学校生徒を着席させた時、足をﾋｰﾀﾀﾞｸﾄに触れさせ、又はﾋｰﾀ吹出し口直前に足を置いたため、足に長時間温風が当たった	①乗客低温火傷（温水式） ②乗客火傷（ﾕｰｻﾞ指定のｴｱﾋｰﾀを使用）	ﾋｰﾀｰが装着された座席の近傍にﾋｰﾀｰ温風に対する乗客への注意喚起のｺｰｼｮﾝﾗﾍﾞﾙを設定済み。 なお業界として注意喚起の提案することを検討する。
92	中型トラック		灰皿破損（車両火災）	破損した灰皿の使用	破損した灰皿を使用することにより、吸殻から発火し延焼	破損した灰皿の使用に起因する事故である。ﾕｰｻﾞには取扱説明書などで、破損した灰皿を使用しないように、注意を促しているが、ﾕｰｻﾞへの啓発は検討課題とする。
93	大型トラック 中型トラック 小型トラック		ｴｱﾊﾞｯｸ非展開	衝突時の衝撃荷重がｴｱﾊﾞｯｸﾞの展開条件を満たさない。	ｴｱﾊﾞｯｸﾞ非展開	現行のｴｱﾊﾞｯｸﾞ展開条件は業界同一ﾚﾍﾞﾙであり、問題ないと考える。
94	大型トラック		ﾌﾛﾝﾄﾊﾌﾞﾎﾞﾙﾄがﾎｲｰﾙﾅｯﾄから突き出し	ﾎｲｰﾙﾅｯﾄの過締付けにより、ﾄﾞﾗﾑﾅｯﾄのﾈｼﾞ山が損傷し、ﾊﾌﾞﾎﾞﾙﾄが突き出る場合がある。	ﾊﾌﾞﾎﾞﾙﾄがﾎｲｰﾙ側に突き出し。	･走行中にﾊﾌﾞﾎﾞﾙﾄが抜出してくる不具合ではない。 ･ﾎｲｰﾙﾅｯﾄを規定通り締付けすれば（過締付なし）、ねじ山の損傷は発生しない。 ･定期点検･整備･ﾀｲﾔﾛｰﾃｰｼｮﾝ時において検知でき、不具合は是正できる。 ･ﾎｲｰﾙﾅｯﾄの正規締付けについては、国土交通省から平成16年12月に「通達」が出され、あらためて、正規点検･整備の周知徹底がはかられてる。大型4社か使用過程車のﾎｲｰﾙﾅｯﾄ締め付けﾄﾙｸを統一するなどの活動をしていますが、当社も、さらなる啓発活動を実施していきます。
95	大型トラック		ｼｭﾉｰｹﾙﾀﾞｸﾄ火災	ﾄﾞﾗｲﾊﾞが走行中に窓からﾎﾟｲ捨てした火の付いたﾀﾊﾞｺが、ｼｭﾉｰｹﾙﾀﾞｸﾄ吸気口から吸込まれ、ｴｱｸﾘｰﾅｴﾚﾒﾝﾄが発火し車両火災に至ったと推定。	ｴｱｸﾘｰﾅ部で発火し車両火災	想定外の事象であり、ﾄﾞﾗｲﾊﾞが走行中に火が着いたﾀﾊﾞｺを窓からﾎﾟｲ捨てしたことが原因と考えられる。
96	中型トラック		ｼｭﾉｰｹﾙﾀﾞｸﾄ火災	同上	同上	同上
97	大型トラック		22.5ｲﾝﾁ ﾎｲｰﾙ亀裂	ﾎｲｰﾙﾅｯﾄ締付け不良過積載等の過酷使用	操安性不良(ｴｱ漏れ) ﾎｲｰﾙ亀裂 ﾀｲﾔ脱落	･ﾎｲｰﾙは、技術基準･JIS･JATMAに基いた規格品であり、ﾕｰｻﾞの使用条件･管理が適正であれば走行時の安全は保証される。 ･なお、ﾕｰｻﾞの整備･管理の徹底が必須であり、自動車ﾒｰｶ、ﾎｲｰﾙﾒｰｶｰとも取り扱い説明書、 ﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄ･ﾘｰﾌﾚｯﾄ などで啓発活動を実施中。
98	大型トラック		19.5ｲﾝﾁ ﾎｲｰﾙ亀裂	同上	同上	同上
99	中型トラック		ﾎｲｰﾙ溶接部亀裂ｴｱ漏れ	同上	同上	同上
100	中型トラック		ﾎｲｰﾙ ﾅｯﾄ穴部より亀裂	同上	同上	同上
101	大型トラック		295/80R22.5ﾀｲﾔﾊﾞｰｽﾄ	①空気圧不足（空気圧管理不良） ②指定ｻｲｽﾞ以外のﾀｲﾔ装着(誤ｻｲｽﾞ装着) ③外傷	操安性不良	･ﾀｲﾔは、技術基準･JIS･JATMAに基いた規格品であり、ﾕｰｻﾞの使用条件･管理が適正であれば走行時の安全は保証される。 ･なお、ﾕｰｻﾞの整備･管理の徹底が必須であり、自動車ﾒｰｶ、ﾎｲｰﾙﾒｰｶｰとも取り扱い説明書、 ﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄ･ﾘｰﾌﾚｯﾄ などで啓発活動を実施中。
102	大型トラック		ﾀｲﾔﾊﾞｰｽﾄ	同上	同上	同上

１０２案件の詳細リスト

別紙 1
2005.2.2

103	小型トラック		全低床車ﾀｲﾔﾊﾞｰｽﾄ	同上	同上	同上
104	大型トラック		ﾌﾛﾝﾄﾊﾌﾞﾎﾞﾙﾄ折損	①ﾎｲｰﾙﾅｯﾄ締付け不良 ②過積載等の過酷使用	ﾊﾌﾞﾎﾞﾙﾄ折損	・ﾎﾞﾙﾄの強度は十分確保されており、ﾎｲｰﾙﾅｯﾄ締付け不良がなく、また、ﾕｰｻﾞｰの使用が適正であれば、問題ない。 ・なお、ﾎｲｰﾙﾅｯﾄの正規締付けについては、国土交通省から平成16年12月に「通達」が出され、あらためて、正規点検･整備の周知徹底がはかられています。大型4社か使用過程車のﾎｲｰﾙﾅｯﾄ締め付けﾄﾙｸを統一するなどの活動をしておりますが、当社も、さらなる啓発活動を実施していきます。
105	大型バス		ﾌﾛﾝﾄﾊﾌﾞﾎﾞﾙﾄ折損	同上	同上	同上

１０２案件の詳細リスト

別紙 1
2005.2.2

5．措置済の案件

(1) 指示改修 (6件)

No	対象車種	関係書類発行日	項目	不具合原因	不具合事象	市場措置要否の判断理由
106	大型トラック	作業依頼書 97/2/28	8M22 ｺﾓﾝﾚｰﾙ圧力ｾﾝｻ　燃料滲み	圧力ｾﾝｻ締付不良により特殊ｼｰﾙﾘﾝｸﾞの押さえ力がが不足したため	燃料滲み	98/06、 ｻｰﾋﾞｽｷｬﾝﾍﾟｰﾝ実施済
107	小型トラック	作業依頼書 95/10/4	後輪ｴｱｻｽBRKT亀裂	ｴｱｻｽ廻りの強度不足	操縦安定性不良	03/05、ﾘｺｰﾙ実施済 (R949)
108	小型トラック	―	CNG 不具合	①空燃比調整不良 ②ﾛｼﾞｯｸ不良 ③ｱｲﾄﾞﾙｽﾋﾟｰﾄﾞ調整不良 ④防水性不良 ⑤配線、防水性不良	始動不良、ｴﾝｼﾞﾝ回転不安定	01/01、ｻｰﾋﾞｽｷｬﾝﾍﾟｰﾝ実施済 01/01、ﾘｺｰﾙ実施 (R708)
109	大型バス	―	ｽﾀﾋﾞﾗｲｻﾞとﾀｲﾔが干渉し、ﾀｲﾔ損傷	ﾘﾔｽﾀﾋﾞﾗｲｻﾞのﾘﾃｰﾅ剛性不足によりｽﾀﾋﾞﾗｲｻﾞがずれ、ﾀｲﾔと干渉した。	ﾘﾔｽﾀﾋﾞﾗｲｻﾞとﾀｲﾔ干渉	00/08、ﾘｺｰﾙ実施済 (R663)
110	大型バス	―	ｴｱﾁｬｰｼﾞﾊﾟｲﾌﾟ折損	ｴｱﾁｬｰｼﾞﾊﾟｲﾌﾟ取付金具に不備があり、振動によりﾊﾟｲﾌﾟに亀裂が発生	ｴｱ漏れ、制動力低下	
111	小型バス	―	ﾌﾛﾝﾄﾌﾞﾚｰｷﾊﾟｲﾌﾟとｻｽﾍﾟﾝｼｮﾝｱｰﾑ干渉	左前輪用ﾌﾞﾚｰｷﾊﾟｲﾌﾟの組付不良により、独立懸架装置のｱｯﾊﾟｱｰﾑとのｸﾘｱﾗﾝｽが不足し干渉。ﾌﾞﾚｰｷﾊﾟｲﾌﾟに穴があいた。	ﾌﾞﾚｰｷ液漏れ (ﾌﾞﾚｰｷ･ﾗﾝﾌﾟ点灯) ﾌﾞﾚｰｷ効き不良	00/08、ﾘｺｰﾙ実施済 (R664)

(2)一般案件 (7件)

No	対象車種	関係書類発行日	項目	不具合原因	不具合事象	市場措置要否の判断理由
112	大型バス		8DC9噴射ﾎﾟﾝﾌﾟﾘﾀｰﾝｽﾌﾟﾘﾝｸﾞﾌﾞﾗｹｯﾄ亀裂	ﾌﾞﾗｹｯﾄ強度不足	ｴﾝｼﾞﾝ吹き上がり	03/6、ﾘｺｰﾙ実施済 (R955)
113	大型トラック		ﾘﾔﾌﾟﾛﾍﾟﾗｼｬﾌﾄ脱落	ｲﾝﾀｰﾃﾞﾌねじ部強度不足	ﾌﾟﾛﾍﾟﾗｼｬﾌﾄとﾃﾞｲﾌｧﾚﾝｼｬﾙｷﾞﾔをつなぐねじの一部にがたが大きい場合、折損する可能性がある。	03/7、 ﾘｺｰﾙ実施済 (R963)
114	中型バス		ｴｱﾀﾝｸﾌﾞﾗｹｯﾄ部ﾌﾚｰﾑ亀裂	ｴｱﾀﾝｸ取付のｼﾙおよびﾌﾞﾗｹｯﾄ溶接部の強度不足	ｴｱﾀﾝｸ取付のｼﾙおよびﾌﾞﾗｹｯﾄ溶接部に亀裂発生	03/12 、ｻｰﾋﾞｽｷｬﾝﾍﾟｰﾝ実施済
115	中型バス		ﾌﾞﾚｰｷﾎｰｽﾌﾛｱと干渉	ﾘﾔﾌﾞﾚｰｷﾎｰｽの配管位置が不適切でｻｽﾍﾟﾝｼｮﾝｽﾄﾛｰｸ時ﾎﾞﾃﾞｰのｼﾙとのｽｷﾏ不足	ｻｽﾍﾟﾝｼｮﾝｽﾄﾛｰｸ時ﾘﾔﾌﾞﾚｰｷﾎｰｽがﾎﾞﾃﾞｰのｼﾙに干渉 社内試験で発覚。市場不具合なし	03/8、 ﾘｺｰﾙ実施済 (R977)
116	大型バス 中型バス		ﾃﾞｨｽﾁｬｰｼﾞﾍｯﾄﾞﾗﾝﾌﾟ不灯 (水浸入)	ﾌﾞﾁﾙﾃｰﾌﾟ部がﾋﾞﾆｰﾙﾃｰﾌﾟ巻きになっており、防水性が悪くｼﾞｮｲﾝﾄからｺﾈｸﾀに水が侵入	ﾃﾞｨｽﾁｬｰｼﾞﾍｯﾄﾞﾗﾝﾌﾟｺﾝﾄﾛｰﾗにｼﾞｮｲﾝﾄ部から水が浸入しﾍｯﾄﾞﾗﾝﾌﾟ不灯	03/6、 ﾘｺｰﾙ実施済 (R954)
117	大型バス		ﾉｲｽﾞによりﾌﾞﾚｰｷ効き不能	想定外の高出力電波を受けた場合、ABSが車速信号を誤認識する。	想定外の高出力電波を受けた場合、ABSが機能不良となりﾌﾞﾚｰｷ効き不良発生	03/12、 改善対策実施済 (K241)
118	中型トラック		ｴｷｿﾞｰｽﾄﾌﾞﾚｰｷ作動時ｽﾘｯﾌﾟ	滑り易い路面 (雨天時等) を空車で走行中、下り坂でｴｷｿﾞｰｽﾄﾌﾞﾚｰｷを作動 (ｱｸｾﾙ、ﾌﾞﾚｰｷ共OFF状態) させたため後輪がﾛｯｸ	後輪がﾛｯｸし、ｽﾘｯﾌﾟ	04/1、ﾘｰﾌﾚｯﾄ配布およびﾎﾞｽﾀｰにより啓発活動実施済

１０２案件の詳細リスト

別紙 1
2005.2.2

6．リコール案件だが、今後発生の可能性が小さく市場措置をしない案件

(1) 指示改修 (6件)

No	対象車種	関係書類発行日	項目	不具合原因	不具合事象	市場措置要否の判断理由
119	大型トラック	作業依頼書 96-2-5	ﾘﾔﾊﾌﾞﾍﾞｱﾘﾝｸﾞ焼付	ﾍﾞｱﾘﾝｸﾞの潤滑不良	ﾊﾌﾞﾍﾞｱﾘﾝｸﾞ焼付	生産時点におけるｸﾞﾘｰｽ充填量不足が原因であるが、定期点検・車検時の点検整備項目部位でありｸﾞﾘｰｽ交換時に適正量のｸﾞﾘｰｽ充填で改善されており、今後発生のおそれはないと考える。
120	大型トラック	指示改修作業依頼書 98/6/4	ｴｱｺﾝﾌﾟﾚｯｻ～ｴｱﾄﾞﾗｲﾔ間のｴｱﾎｰｽ熱劣化	ｴｱﾎｰｽの耐熱性不足のため熱劣化、耐圧性が低下し、ﾎｰｽ亀裂に至る。	ｴｱ漏れ	当該ﾎｰｽは定期交換部品であり、定期点検・車検点検時に確認や定期的なﾎｰｽ交換により改善品に是正されていると考える。 また、ｴｱ漏れ発生後にｴｱ圧が低下すると、警報ﾌﾞｻﾞｰが吹鳴し、更に警告灯が点灯するので認知できる。
121	小型トラック	指示改修作業依頼書 97/2/26	ﾌﾛﾝﾄﾌﾞﾚｰｷﾎｰｽ干渉	ﾌﾞﾚｰｷﾎｰｽの長さが不適切で（長い）、取付けのﾊﾞﾗﾂｷにより、操舵時にﾀｲﾔと干渉するおそれがある。	干渉により、ﾎｰｽが摩耗し、穴明きの場合はﾌﾞﾚｰｷ液漏れ。	当該ﾎｰｽは定期交換部品であり、定期点検・車検点検時に確認や定期的なﾎｰｽ交換により改善品に是正されていると考える。 また、液漏れが発生すると、警報ﾗﾝﾌﾟが点灯するので認知できる。
122	大型バス	作業依頼書 92-12-22	後輪　ｽﾗｯｸｱｼﾞｬｽﾀ不具合	ｽﾗｯｸｱｼﾞｬｽﾀが前・後方向の組付け間違いにより、ｽﾗｯｸｱｼﾞｬｽﾀのｸﾞﾘｰｽﾆｯﾌﾟﾙがｶﾑｼｬﾌﾄﾌﾞﾗｹｯﾄと干渉し、ｽﾗｯｸｱｼﾞｬｽﾀが引っかかる。	ﾌﾞﾚｰｷ効き不良	定期点検・車検にてｽﾗｯｸｱｼﾞｬｽﾀの給脂やｽﾄﾛｰｸ確認項目であり、干渉は発見され、組付け改善されており、今後発生するおそれはないと考える。
123	中型バス	指示改修依頼書 00/4/11	ｴﾝｼﾞﾝﾊｰﾈｽｼｮｰﾄ	ｴﾝｼﾞﾝﾊｰﾈｽとﾗｼﾞｴｰﾀｼｭﾗｳﾄﾞのｸﾘｱﾗﾝｽが少なく、組付けバラツキによりﾗｼﾞｴｰﾀｰｼｭﾗｳﾄﾞのｴｯｼﾞ部分と接触、被覆が損耗してｼｮｰﾄする。	ｴﾝｼﾞﾝｱﾗｰﾑﾗﾝﾌﾟ点灯、ｴﾝｽﾄ	対象車両は改修改善されており、今後発生するおそれはないと考える。
124	小型バス	作業依頼書 97/9/17	ﾀｲﾛｯﾄﾞｴﾝﾄﾞ不具合	締付不良（割ﾋﾟﾝ取付忘れ）	ﾀｲﾛｯﾄﾞｴﾝﾄﾞ外れ	締付け不良によるものであり、不具合は、定期点検・車検にて点検整備部位であり、ｶﾞﾀや緩み確認時に是正されるため、今後発生するおそれはないと考える。

(2)一般案件 (3件)

No	対象車種	関係書類発行日	項目	不具合原因	不具合事象	市場措置要否の判断理由
125	小型トラック 小型バス		ｽﾀｰﾀ連続通電	ｽﾀｰﾀﾘﾚｰの接点の溶着	ｽﾀｰﾀ、ｽﾀｰﾀﾊｰﾈｽの焼損	本不具合は初期なじみ不足による初期型の故障であり、不具合は収束したと考えるが、今後市場情報を注視する。
126	大型トラック 大型バス		6M70Tﾀｰﾋﾞﾝ破損 （03/1ﾘｺｰﾙ実施後）	①VG翼開度制御用ｿﾚﾉｲﾄﾞﾊﾞﾙﾌﾞ製造不良 ②ﾀｰﾋﾞﾝﾌﾞﾚｰﾄﾞ鋳造不良(異物混入) 調整不良、ﾒﾝﾃﾅﾝｽ不良	出力不足 異音 黒煙吐出	①ｿﾚﾉｲﾄﾞﾊﾞﾙﾌﾞの不良は初期型故障で今後発生のおそれなし ②ﾀｰﾋﾞﾝ翼の鋳造不良は特異事例 本不具合は、人身・火災事故につながる危険性は無く、安全上の問題はないが、今後の市場情報を注視する。 整備時の調整不良が原因で発生した不具合であり、適切な車両整備が実施されていれば不具合に至ることはないと考える。
127	大型トラック 中型トラック 大型バス 中型バス		ｴｱﾄﾞﾗｲﾔ排気ﾊﾞﾙﾌﾞ亀裂	ｴｱﾄﾞﾗｲﾔの排気ﾊﾞﾙﾌﾞにおいて、ｼｰﾙｺﾞﾑ用と金属ﾊﾞﾙﾌﾞの間接着強度に低い物が有り、ｴｱの流れにより剥離し、ｺﾞﾑ部に亀裂が発生する。	低圧警報作動 ﾌﾞﾚｰｷｴｱ漏れ ｴｱ充填不十分、または不能	ｴｱﾄﾞﾗｲﾔの排気ﾊﾞﾙﾌﾞｱｾﾝﾌﾞﾘは2年毎の定期交換部品 また、不具合は対策後3年間発生無く、定期点検・車検点検時に確認、対策品に交換され是正されるため、今後不具合発生のおそれはないと考えるが、今後の市場情報を注視する。

102案件の人身・物損・火災の詳細リスト

別紙2

2005.2.2

1.物損事故

No.9 駐車ﾌﾞﾚｰｷのｹｰﾌﾞﾙ外れ

No	車両型式	架装	不具合発生日	登録日	走行距離(km)	現象	発生場所	不具合状況	備考
1	BE459F	送迎	平成5年3月1日	平成4年9月25日	14,622	ﾊﾟｰｷﾝｸﾞﾌﾞﾚｰｷ効かず	佐賀県	玄関先のなだらかな坂道にサイドブレーキを掛けて停車させ、ドライバーが車両を離れている間に、サイドブレーキが緩み車両動き後面をぶつけた。	
2	BE438F	園児送迎	平成8年3月14日	平成8年1月31日	2,025	ﾊﾟｰｷﾝｸﾞﾌﾞﾚｰｷ効かず	神奈川	園児送迎中、緩い上り坂にて園児3名を降ろすためパーキングブレーキを引き停車、ドライバーが園児を扉に誘導するため運転席を離れた直後に車両が後退し始めた。ドライバーが運転席に戻りパーキングブレーキを更に引くも停止せず、車両右後部を石垣にぶつけて車両を停止させた。	
3	BE438E	ﾚﾝﾄｹﾞﾝ車	平成8年4月9日	平成8年3月27日	494	ﾊﾟｰｷﾝｸﾞﾌﾞﾚｰｷ効かず	兵庫	車両を車庫に入れパーキングブレーキを引き車両駐車してドライバーは帰路に着いたが、車両が動き出し車庫のシャッターを壊していた。	
4	BE449F	送迎	平成8年5月24日	平成8年2月28日	6,731	ﾊﾟｰｷﾝｸﾞﾌﾞﾚｰｷ効かず	兵庫県JR相野駅前	従業員を迎えに行きJR駅のロータリーにパーキングブレーキを引きドライバー下車、約10分後車両に戻った処、前にいた車に追突していた。	
5	BE438E	不明	平成8年6月6日	平成8年3月25日	693	ﾊﾟｰｷﾝｸﾞﾌﾞﾚｰｷ効かず	北海道	駐車中サイドブレーキ効かず、車両動き出し接触事故発生。フロントバンパ及びフロントパネル破損。	

2.火災事故

No.1 非駆動アクスル 製造不良

No	車両型式	架装	不具合発生日	登録日	走行距離(km)	現象	発生場所	不具合状況	備考
1	FU410UZ	ｳｲﾝｸﾞ	平成9年7月15日	平成7年2月17日	369,330	火災	神奈川県東名高速道下り15.5km付近	高速走行中、異音発生し車両が傾いたため停車。車両後部より、白煙が発生したため消火器で消火。被害の程度は不明。	

No.20 フィンガー式,ABS付車シャシハーネス不具合

No	車両型式	架装	不具合発生日	登録日	走行距離(km)	現象	発生場所	不具合状況	備考
2	MJ629F	観光	平成8年6月15日	平成8年1月24日	23,788	火災	神奈川県三浦市内	停車中、乗客の連絡により車両左後部ﾀｲﾔﾊｳｽ付近から出火・発煙を確認し、消火器にて消火。ﾊｰﾈｽ類が焼損。	
3	MJ629F	観光	平成9年7月29日	平成8年3月28日	76,888	火災	兵庫	ｴﾝｼﾞﾝ始動時、左側後部(ﾀｲﾔの前側)のﾄﾗﾝｸﾘｯﾄﾞから発煙、ﾄﾗﾝｸﾘｯﾄﾞを開け消火した。ﾊｰﾈｽ類が焼損。	

拡大調査の詳細リスト

別紙 3
2005.2.2

1．市場措置検討中の案件
(1) 指示改修（10件）

No	対象車種	優先度	書類	関係書類発行日	項目	不具合原因	不具合事象	製造 期間	対象台数	登録台数(推定)	商連書件数			
											不具合件数	人身	物損	火災
1	大型トラック	2	メモ	1994/11/17	ﾌﾞﾚｰｷｳｫｰﾆﾝｸﾞ回路追加	回路設定もれ	ﾌﾞﾚｰｷには影響無いが、ﾌﾙｰﾄﾞﾚﾍﾞﾙの低下やｴｱﾏｽﾀｽﾄﾛｰｸが増大（ﾌﾞﾚｰｷﾗｲﾆﾝｸﾞ摩耗）しても、ﾌﾞﾚｰｷｳｫｰﾆﾝｸﾞﾗﾝﾌﾟ不点灯、ｳｫｰﾆﾝｸﾞﾌﾞｻﾞｰ不鳴となる	93/6～94/9	約110	80	0	0	0	0
2	大型トラック	2	依頼書	1999/12/21	ｴｱﾀﾝｸ部ｴｱﾊﾟｲﾌﾟ交換	パイプ形状に問題があり、シャシとエアタンク間の相対変位でパイプ応力が大。	ﾊﾟｲﾌﾟが亀裂し、ｴｱ漏れ	96/7～99/3	約3,500	3,400	9	0	0	0
3	大型バス	2	公簡	2000/6/9	エアマスター水浸入	大型バスの一部において、ブリーザー防水カバー未取付け	エアマスター内水浸入により制動力低下又は戻り不良	97/3～00/3	210	200	2	0	0	0
4	大型トラック	1	公簡	1989	リヤプロペラシャフト折損	プロペラシャフト溶接部強度不足	プロペラシャフト溶接部亀裂・折損	83/7～88/9	8,293	400	3	0	0	0
5	大型トラック	2	メモ	1999/12/21	補助ブレーキ冷却回路水漏れ	ｲﾝﾀｰﾀﾞ水管ﾎｰｽの強度不足、ｸﾗﾝﾌﾟ力不足	冷却水漏れが発生、最悪の場合エンジンｵｰﾊﾞﾋｰﾄ	96/6～98/10	163	160	36	0	0	0
6	中型トラック	2	公簡	1995/6/16	オートマチックトランスミッション不具合	ブレードろう付け強度不足	発進加速時出力低下 1件路上故障（走行不能）あり	92/9～93/9	84	60	5	0	0	0
7	大型バス	2	ｻｰﾋﾞｽ連絡書	1991/4/1	ラジアスロッド交換	整備中のジャッキアップもしくは走行中に受けたと思われる外傷を起点とし、ﾛﾜｰﾗｼﾞｱｽﾛｯﾄﾞが折損	ﾗｼﾞｱｽﾛｯﾄﾞ折損	82/10～87/7	3,073	800	2	0	0	0
8	大型トラック	2	メモ	1996/2	ジャンクションコード交換	ジャンクションコードの容量不足	ジャンクションコードが溶断、ﾊﾞｯﾃﾘ充電不能、最悪の場合エンジンが停止するおそれがある。	95/5～96/7	104	100	4	0	0	0
9	大型バス	1	依頼書	1986/1/23	ｽﾃｱﾘﾝｸﾞｷﾞﾔBox取付けﾌﾞﾗｹｯﾄ補強	すえ切りの繰り返しにより溶接部損傷	亀裂が進展すると最悪の場合操舵不能となるおそれがある。	82/10～85/7	2,164	500	5	0	0	0
10	大型バス	2	メモ	1998/10/5	エアチャージパイプ亀裂	エンジン振動による疲労破損	ﾊﾟｲﾌﾟが亀裂し、ｴｱ漏れ。最悪の場合ブレーキ制動力不足となるおそれがある。	調査中	調査中	調査中	10	0	0	0

拡大調査の詳細リスト

別紙 3
2005.2.2

(2) 一般案件 (7件)

No	対象車種	優先度	書類	関係書類発行日	項目	不具合原因	不具合事象	製造 期間	対象台数	登録台数(推定)	商連書情報			
											不具合件数	人身	物損	火災
11	大型トラック	1	PQR	1988/1/27	トルクロッド折損	整備中のジャッキアップもしくは走行中に受けたと思われる外傷を起点とし、トルクロッドが折損	走行時異音、タイヤバースト、走行不能	82/10～96/5	約60,000	28,000	15	1	6	0
12	大型トラック	1	PQR	1987/11/4	プロペラシャフトユニバーサルジョイント不具合	プレロード過大 グリースの初期充填不足 ベアリングオイルシールのリップ部不良	スパイダーニードルベアリングが焼付き。ヨークが破損し、最悪の場合プロペラシャフト脱落のおそれがある。	83/7～94/11	調査中	調査中	44	1	3	1
13	大型トラック	2	整備ニュース	2000/6/13	ﾊﾟﾜｽﾃﾊﾟｲﾌﾟとﾊｰﾈｽ隙間不足	ﾊﾟﾜｽﾃﾊﾟｲﾌﾟとﾊｰﾈｽの干渉	ﾊﾟﾜｽﾃﾊﾟｲﾌﾟ穴あき、ﾊｰﾈｽ断線・焼損し、ｴﾝｽﾄ、ﾍｯﾄﾞﾗﾝﾌﾟ不灯、ﾁﾙﾄ不能	97/4～00/3	396	300	3	0	0	0
14	大型トラック	2	技術資料	2000/5･6	エアタンク取付ブラケットボルト外れ	ﾎﾞﾙﾄ締付け不足	エアタンク取付けボルトが脱落し、最悪の場合エアタンクが外れ、ｴｱﾊﾟｲﾌﾟ破損のおそれがある。	96/7～00/3	1,534	1,200	5	0	0	0
15	小型バス	2	技術資料	1998/2/19	ﾌﾛﾝﾄﾌﾞﾚｰｷﾊﾟｲﾌﾟ穴あき	T/Mｺﾝﾄﾛｰﾙﾛｯﾄﾞとﾌﾞﾚｰｷﾊﾟｲﾌﾟの隙間不足	T/Mロッドとブレーキパイプが干渉	91/10～95/4	81	60	4	0	0	0
16	大型バス	1	技術資料	1991/7/31	独立懸架仕様大型ﾊﾞｽ ﾀｲﾛｯﾄﾞｴﾝﾄﾞ抜け出し	ﾀｲﾛｯﾄﾞｸﾗﾝﾌﾟﾎﾞﾙﾄの軸力不足	ﾀｲﾛｯﾄﾞﾈｼﾞ部にｶﾞﾀ ﾀｲﾛｯﾄﾞ抜出し	82/10～92/12	約9000	4,800	7	0	0	0
17	大型バス	1	技術資料	1997/10/22	ステアリング系ボールスタッド亀裂	強度不足	ボールスタッドに微小亀裂発見。 最悪の場合、ボールスタッドが折損するおそれがある。	82/10～97/2	約10,000	6,400	2	0	0	0

拡大調査（指示改修）の詳細リスト

別紙3
2005.2.2

2．サービスキャンペーン相当案件（80件）

No	対象車種	書類	関係書類発行日	項目	不具合原因	不具合事象	市場措置要否の判断理由
18	中型トラック	メモ	1996/12/12	フルパワーPTOインプットギア素材不良	製造工程における残湯不足	インプットギア破損によるPTO作動不良のおそれがある	架装物の機能に係る問題である
19	中型バス	依頼書	1996/11/21	オルタネーターハーネス改修	配索不良	ｵﾙﾀﾊｰﾈｽとｺﾝﾃﾞﾝｽﾀﾝｸｻﾌﾞﾗｹｯﾄが干渉し配線がショートするおそれがある	ｼｮｰﾄしてもｳｵｰﾆﾝｸﾞが点灯 ｴｱｺﾝ・冷蔵庫などの電源も入らないため火災等の問題はない ﾊﾞｯﾃﾘｰ充電の不具合であり突然走行不能には至らない
20	大型バス	依頼書	1999/02/10	No.6インジェクションノズル燃料漏れ点検	車両組み立て時、ｴﾝｼﾞﾝ吊下ﾜｲﾔｰと噴射管が干渉し、Ｎｏ．６噴射ノズルのキャップナットに緩み発生。	噴射ノズルのキャップナット部より、最悪の場合燃料漏れのおそれがある。	燃料漏れはにじみ程度である。また、定期点検･車検時に確認，是正されていると考える。
21	大型バス	公簡	1997/09/05	リード弁式エアコンプレッサ変更	オイルリングの磨耗によるオイル上がり。 その結果、カーボン詰まりが発生し、充填性能低下によりエアー圧低下する。	エア圧低下によるウォーニングランプ点灯。充填時間が長くなる。 最悪の場合、カーボンでﾊﾟｲﾌﾟが詰まり、閉塞部の手前に穴があき、エア充填不良のおそれがある。	ウォーニングランプが点灯すること及び充填時間が長くなることで予見性があり、安全な場所へ充分退避できる。
22	大型トラック	依頼書	1996/11/11	リターダオイル量点検	組立ﾗｲﾝでのｵｲﾙ充填量過多	回路油圧が上昇､ｵｲﾙﾎｰｽあるいはｵｲﾙﾎﾟﾝﾌﾟからｵｲﾙ洩れを起こすおそれがある。	不具合は極めて早期（最長出荷後21日）に発生。また不具合はリターダの故障のみでサービスブレーキは正常に作動し、安全上も問題ない。
23	小型トラック	メモ	1985/10/23	キャブ片寄り	ｷｬﾌﾞﾁﾙﾄ･ﾄｰｼｮﾝﾊﾞｰのﾄﾙｸ反力により､ｷｬﾌﾞ後方部が右側にずれる	ｷｬﾌﾞの後方部が右ずれして見栄えが悪い	見栄えに対する苦情であり、商品性の問題である。
24	小型トラック	メモ	1985/11/06	直噴特装車ｲﾝﾃｰｸｻｲﾚﾝｻｰ開かず	特装専用ハーネス回路（作業時はインテークサイレンサを開にする）の配線もれ	停車作業時、ｲﾝﾃｰｸｻｲﾚﾝｻｰが閉じたままで、エンジン不調	製作後20年経過しており、既に是正されていると考える。走行中は問題ない。
25	大型トラック	メモ	1998/06/09	ｸｰﾘﾝｸﾞﾌｧﾝ交換	ﾌｧﾝ取付ﾌﾟﾚｰﾄの強度不足	ファン取付プレート亀裂、ファンブレード破損。最悪の場合、ファンブレードがラジエータに当たり、ラジエータコアが損傷し、水漏れを起こすおそれがある。	異音と、ｳｫｰﾀｰﾚﾍﾞﾙｾﾝｻと、水温計で最終事象に至る前に予見性がある。
26	大型トラック	メモ	1996/2	コーションプレート貼付け	誤品のｻﾌﾞﾋｭｰｽﾞｺｰｼｮﾝﾌﾟﾚｰﾄを貼付けて出荷	コーションプレート記載のヒューズを装着の場合、容量ｵｰﾊﾞｰしてﾋｭｰｽﾞが断線するおそれがある。	整備解説書および架装要領書には正規のヒューズ容量が記載されている。
27	大型トラック	メモ	1996/2	電源取り出し回路変更	指示ミス	容量不足で、ヒューズが断線するおそれがある。	ｶﾞﾗｽの熱線が作動しなくなる不具合で、ﾕｰｻﾞは容易に検知できる。
28	大型トラック	メモ	1985/04/12	ｴｱﾊﾟｲﾌﾟ交換	架装メーカ取付（架装工事）のサイドガードステーがエアドライヤ～パージタンク間エアパイプとの隙間余裕不足	架装メーカ後付のサイドガードステーがエアパイプとの隙間に余裕が少ないため、干渉のおそれがある。	20年間市場不具合情報がなく、是正されたと考える。
29	大型トラック	公簡	1993/09/04	ｷｬﾌﾞﾊｰﾈｽ～ﾀｺｸﾞﾗﾌﾌﾞﾗｹｯﾄ間の調整	ｷｬﾌﾞﾊｰﾈｽとﾀｺｸﾞﾗﾌﾌﾞﾗｹｯﾄとの隙間余裕不足	ｷｬﾌﾞﾊｰﾈｽとﾀｺｸﾞﾗﾌﾌﾞﾗｹｯﾄの干渉	社内で発見、11年間市場不具合情報なし。 最悪条件時の隙間の余裕不足であり、万が一接触してもﾋﾞﾆｰﾙﾃｰﾌﾟが損傷するのみで断線までに至らない。
30	大型トラック	メモ	1996/06/24	ﾁﾙﾄﾎﾟﾝﾌﾟ行きﾊｰﾈｽ配索変更	ｴｷｿﾞｰｽﾄﾊﾟｲﾌﾟとﾊｰﾈｽの隙間余裕不足	真夏、高負荷走行時ハーネスに硬化のおそれがある。	熱により、ｷｬﾌﾞﾁﾙﾄｺﾝﾄﾛｰﾙ専用ﾊｰﾈｽの被覆が硬化するのみで断線には至らない。
31	大型トラック	メモ	1996/08/16	ﾛｯｸﾌﾞﾚｰｷ付車のﾊﾝﾄﾞﾌﾞﾚｰｷｹｰﾌﾞﾙ交換	ハンドブレーキケーブルの調整代余裕不足	ｼｭｰｷﾞｬｯﾌﾟ調整頻度大	商品性の問題
32	大型トラック	メモ	1996/08/16	ｴﾝｼﾞﾝｺﾝﾄﾛｰﾙﾛｯﾄﾞ交換	ﾌﾟﾚｽﾄﾛｰｸｺﾝﾄﾛｰﾙ行きﾊｰﾈｽとｴﾝｼﾞﾝｺﾝﾄﾛｰﾙﾛｯﾄﾞとの隙間不足	ﾌﾟﾚｽﾄﾛｰｸｺﾝﾄﾛｰﾙ行きﾊｰﾈｽとｴﾝｼﾞﾝｺﾝﾄﾛｰﾙﾛｯﾄﾞとの干渉のおそれがある。	1台のみの流出。車両出荷後８年経過しており、今後不具合発生のおそれは無いと考える。
33	大型トラック	メモ	1996/08/16	慣性過給ﾎｰｽﾌﾞﾗｹｯﾄ交換	キャブブリッジ部の過給ホースブラケットと燃料フィルタエアベントコックとの隙間不足	キャブブリッジ部の慣性過給ホースブラケットと燃料フィルタエアベントコックとの干渉のおそれがある	1台のみの流出。車両出荷後８年経過しており、今後不具合発生のおそれは無いと考える。

拡大調査（指示改修）の詳細リスト

別紙3
2005.2.2

34	大型トラック	メモ	1996/08/16	ﾏｯﾄﾞｶﾞｰﾄﾞｽﾃｲ追加	ﾏｯﾄﾞｶﾞｰﾄﾞ取付部の剛性不足	マッドガードの振れ	1台のみの流出。車両出荷後8年経過しており、今後不具合発生のおそれは無いと考える。
35	大型トラック	メモ	1996/08/16	冷却水ｻﾌﾟﾗｲﾊﾟｲﾌﾟ交換	ｻﾌﾟﾗｲﾊﾟｲﾌﾟとﾋｭｰｴﾙﾌｨﾙﾀとの隙間不足	冷却水サプライパイプとヒューエルフィルタとの干渉のおそれがある。	1台のみの流出。車両出荷後8年経過しており、今後不具合発生のおそれは無いと考える。
36	中型バス	メモ	1985/11/25	ｴｷﾞｿﾞｰｽﾄﾊﾟｲﾌﾟ交換	ｴｷﾞｿﾞｰｽﾄﾊﾟｲﾌﾟの耐久性不足	最悪の場合、亀裂が発生するおそれがある	対策後20年経過しており、今後不具合発生のおそれはないと考える。 排気管の損傷は定期点検・車検で確認、対策品に交換され是正されていると考える。
37	中型トラック	メモ	1992/08/05	燃料ﾀﾝｸｷｬｯﾌﾟの爪破損	ﾕｰｻﾞｰのｷｬｯﾌﾟ取り扱い不良	ｷｬｯﾌﾟﾊﾝﾄﾞﾙ部の爪が損傷し、ｷｬｯﾌﾟ取り外し不能	ユーザ取り扱い上の問題。
38	中型トラック	メモ	1997/04/10	工具箱取付け	工具箱手配もれ	車載工具での整備不能	商品性の問題
39	小型トラック	公簡	1987/08/20	PTOｺﾝﾄﾛｰﾙﾘﾝｸｶﾊﾞｰブラケット剛性増大	PTOｺﾝﾄﾛｰﾙﾘﾝｸｶﾊﾞｰブラケットの剛性不足	PTOｺﾝﾄﾛｰﾙﾘﾝｸｶﾊﾞｰブラケットの溶接部で亀裂のおそれがある	走行等に支障はなく、商品性に関する問題。
40	小型トラック	メモ	1995/07/27	ｻﾌﾞﾗｼﾞｴﾀｰ用ｳｫｰﾀｰﾊﾟｲﾌﾟ交換	ウォーターパイプとタイロッドの隙間不足	最悪の場合干渉によりｳｫｰﾀｰﾊﾟｲﾌﾟ損傷、冷却水漏れによるオーバーヒートのおそれがある	水温計で最終事象に至る前に予見性がある。
41	中型トラック	メモ	1992/08/05	ヒューズボックス用コーションラベル熱変形	ヒューズボックス用コーションラベル耐熱性不足	コーションラベルの端部が変形	熱変形しても視認可能であり、整備解説書によっても確認可能。
42	中型バス	公簡	1993/10/16	ﾁｬｰｼﾞﾗﾝﾌﾟ誤点灯	MUTICの内部部品設定不良	チャージランプが夜間のみ極薄く視認できる程度で点灯する	夜間のみ極薄く点灯が視認できる程度であり、商品性の問題と考える。
43	中型トラック	依頼書	1993/02/01	最大積載量ラベル貼替	誤貼付け	積載量誤表示	・車両の機能上の問題はない。 ・最大積載量の過少表示であり、表示通りの荷物を積載しても車両総重量の仕様値を超えることはない。
44	小型トラック	公簡	1996/02/28	ﾋｰﾀｰﾎｰｽとｴｱﾀﾞｸﾄ取付ブラケット干渉	ﾋｰﾀｰﾎｰｽとｴｱﾀﾞｸﾄ取付ブラケット隙間余裕不足	最悪の場合干渉によりヒーターホースが損傷、エンジン冷却水漏れによるオーバーヒートのおそれがある	水温計で最終事象に至る前に予見性がある。
45	小型トラック	公簡	1996/02/28	フライホイール PTOｹｰｽとｷｬﾌﾟﾌﾛｱ干渉	フライホイール PTOｹｰｽとｷｬﾌﾟﾌﾛｱ隙間不足	ﾌﾛｱﾊﾟﾈﾙ、ﾌﾛｱﾌﾚｰﾑ端部の変形および異音	干渉が発生した場合でも、ﾌﾛｱﾊﾟﾈﾙやﾌﾛｱﾌﾚｰﾑの端部が変形するのみで、車両の安全走行や機能に支障はなく、PTOの機能にも影響はない。
46	大型トラック	公簡	1987/04/11	ﾊﾟﾜｽﾃﾎｰｽ交換	ホース曲げに対する、かしめ部の耐久性不足	ﾎｰｽかしめ不良により、最悪の場合かしめ部から水浸入のおそれがある。	対策後18年を経過しており、今後不具合が発生するおそれはないと考える。ﾊﾟﾜｽﾃﾎｰｽは4年交換部品であり、定期点検・車検にて交換され是正されていると考える。
47	大型トラック	メモ	1984/09/07	ﾚｲｺｻｽﾘﾔｽﾌﾟﾘﾝｸﾞ点検改修	①ｻﾌﾟﾘｰﾌ形状不良 ②ｼｬｯｸﾙﾘﾝｸﾎﾞﾙﾄ締め付け不確実	No1ﾘｰﾌのﾃﾝｼｮﾝ面が損傷	①不具合発生時も、2番ﾘｰﾌの前端巻部により、車軸保持機能は維持され、走行は可能。 ②締付ﾄﾙｸは定期点検項目であり、対策後21年を経過し、不具合は容易に認知されることから定期点検・車検にて是正されていると考える。

拡大調査（指示改修）の詳細リスト

別紙3
2005.2.2

48	大型バス	メモ	1986/05/12	リヤセルフステアリングロック機構レイアウト変更	①リンクレイアウト不良 ②シリンダー耐腐食性能不足	①シミ-、ﾀｲﾔ摩耗 ②シリンダー作動不良により高速走行時、若干の直進性悪化	①商品性の問題 ②発生時も、高速時の直進性が若干悪化するが、一般走行には問題はない。（後々軸のｽﾃｱﾘﾝｸﾞﾛｯｸ機構は、60km/h以上の速度で作動）
49	クレーン車	メモ	1985/03/14	パワーステアリングポンプ入力フランジ取り付け状態点検	ロックボルトの組み付け位置不良	フランジがたつき	対策後２０年以上経過しており、今後不具合発生のおそれはないと考える。機能上の問題はない。
50	大型トラック	公簡	1996/08/16	パワーステアリングギアボックス交換	ﾊﾟﾜｰｽﾃｱﾘﾝｸﾞ入出力特性不良	異音	商品性の問題
51	中型トラック	メモ	1995/12/07	ブレーキ整備キット点検	誤手配	ブレーキ液滲みの懸念	液滲み量微小のため制動力の低下はなく、走行上支障は無い。 対策後９年を経過している事から、２年毎の定期交換で是正されていると考える。
52	大型トラック	ｻｰﾋﾞｽ連絡書	1997/3	パワーウィンドモータ交換	モータ部品製造不良	パワーウィンドモータが空転しドアガラス昇降できなくなる。	商品性の問題
53	大型トラック	公簡	1996/07/01	キャブエアサススプリング上部ワッシャ誤組	上下２枚のワッシャを逆組み	異音	商品性の問題
54	小型バス	依頼書	1999/12/06	ｴｱｻｽ車ﾗﾃﾗﾙﾛｯﾄﾞﾌﾟﾚｰﾄ未装着	作業不良	万が一ブッシュが破損した場合にロッドが抜け出す。	万が一を想定し設定したプレートであり、ﾎﾞﾙﾄは締結されているので直ちに路上故障にはならない。
55	大型トラック	メモ	1984/05/23	ｴｱﾄﾞﾗｲﾔﾋｰﾀｰ用ﾊｰﾈｽ接続点検	組立不良（ハーネスコネクタ結合忘れ）	寒冷時の始動時にエアドレインが凍結し、排水されない。	凍結時に排水機能が低下するのを防止するｵﾌﾟｼｮﾝ機能であり、エアドライヤ機能には問題ない。
56	大型トラック	公簡	1995/02/01	VGﾀｰﾎﾞﾁｬｰｼﾞｬ制御ｺﾝﾄﾛｰﾙｴｱ回路誤組	作業不良	フェールセーフ機能が働き、出力が制限される。	商品性の問題
57	小型トラック	公簡	1999/02/02	ﾘﾔｽﾀﾋﾞﾗｲｻﾞｰ組付け点検	スタビライザー左右逆組	ﾌﾟﾛﾍﾟﾗｼｬﾌﾄとの隙間が不足して干渉､異音発生。	点検、是正済
58	大型バス	公簡	1989/07/18	ウォータポンプ駆動用Ｖベルトのスリップ音発生	ブラケットとの面当たり不良によるベルトの緩み	Ｖベルトスリップ音発生	不具合はﾍﾞﾙﾄのスリップ音で認知できる。さらに進行しても水温とオルタネータﾁｬｰｼﾞﾗﾝﾌﾟで検知可能。
59	大型バス	公簡	1989/12/08	オルタネーターブラケット亀裂	ｵﾙﾀﾈｰﾀﾌﾞﾗｹｯﾄの強度不足	オルタネータチャージ不良	不具合はﾁｬｰｼﾞｳｫｰﾆﾝｸﾞﾗﾝﾌﾟにて認知可能。
60	大型トラック	メモ	1999/12/21	インジェクタ取付ボルト及びノズルガスケット交換	市場措置時（1998/05/26のサービスキャンペーン）におけるガスケット誤組によるボルト緩み。	ﾉｽﾞﾙｶﾞｽｹｯﾄ･ﾉｽﾞﾙﾁｭｰﾌﾞ間からのｶﾞｽ漏れ。最悪の場合インジェクタ取り付けボルトが折損するおそれがある。	不具合が発生してもロッカーカバー内へのガス漏れにより出力低下するが走行は可能。
61	大型トラック	メモ	1998/04/15	トラクタ対応　インジェクタ交換	燃料内異物によるｲﾝｼﾞｪｸﾀ損傷。	出力不足	不具合発生しても、出力は低下するが、走行は可能である。
62	大型トラック	公簡	1998/06/09	ポンプドライブシャフト固定ナットゆるみ	締付けトルク不足	ナットが緩み、最悪の場合ｶﾊﾞｰ破損しｵｲﾙ漏れの恐れがある。	ナットが緩んでも、ｽﾌﾟﾗｲﾝにより動力伝達され、自走可能。
63	大型トラック	メモ	1997/03/31	電子ガバナＥＣＵ交換	データ設定ミス	加速感不良	フィーリング上の商品性の問題。

拡大調査（指示改修）の詳細リスト

別紙3
2005.2.2

64	中型バス	メモ	1986	アクセル渋り	スピードコントロールレバーのブッシュが摩耗	アクセルペダル操作力大	フィーリング上の商品性の問題。
65	中型トラック	メモ	1984/11/21	電子タイマ作動不良	噴射タイミング制御回路不良	出力不足、燃費不良	商品性の問題。 なお、排出ガスの悪化はない。
66	中型トラック	メモ	1992/08/05	排ガスラベル貼り替え	ラベル接着力不足	排ガスラベル剥がれ落ち	商品性の問題。
67	中型トラック	メモ	1995/08/07	エアコンプレッサ交換	エアコンプレッサ容量誤設定	エアコンプレッサ作動頻度大	商品性の問題。
68	中型トラック	メモ	1998/05/30	ウォータレベルセンサ取付部ガスケット交換	ガスケットの誤設定	水漏れ	不具合発生時、ウォーターレベルウォーニングランプ点灯により予見可能。
69	中型トラック	メモ	1992/08/05	オイル･冷却水注入ラベル貼り付け	ラベル未設定	誤整備のおそれがある	取扱い説明書に記載あり。
70	小型トラック	メモ	1996/08/23	排気マニホールドねじ穴誤加工	排気ﾏﾆﾎｰﾙﾄﾞのﾊﾟｲﾌﾟ取付ﾈｼﾞ穴位置誤加工	ｼｰﾙﾘﾝｸﾞ部からの微小な排ガス漏れ	微小な漏れであり、周りにインシュレータがあり二次不具合のおそれはない。
71	小型トラック	メモ	1998/02/12	エンジン換装	エンジンフロントケース加工不良	ｵｲﾙ漏れ，ｷﾞｱの当り不良のおそれがある	バキュームポンプ、パワステポンプは作動には支障はない。
72	小型トラック	メモ	1996/02/28	PTO作動不良	PTO 断接用油圧切換装置の電磁ﾊﾞﾙﾌﾞ戻り不良	PTOｽｲｯﾁをOFFにしても断にならない	全車処置済
73	小型トラック	メモ	1996/02/28	PTO付A/Tフルードの交換	洗浄不良による切粉混入	ＡＴ内部損傷の恐れ	全車処置済
74	大型バス	公簡	1996/09/20	冷房車アイドルアップ機構改修	アクセルレバーとアイドルアップのクレビスとの干渉	冷房未使用時アクセル全開とならないおそれがある。	商品性の問題。
75	大型バス	メモ	1989/03/31	フィンガコントロールギア鳴り	ｼﾝｸﾛﾘﾝｸﾞﾁｬﾝﾌｧ部の摩耗によるｼﾝｸﾛ保持力低下	ギア鳴りが発生	商品性の問題。
76	大型バス	メモ	1985/04/09	フィンガコントロールチェンジレバーブーツ交換	ブーツとチェンジレバーシャフトの干渉	チェンジレバーブーツの破れ	商品性の問題
77	大型バス	メモ	1985/08/29	フィンガーコントロールギアシフトユニットの交換	ポジションスイッチへの水浸入による絶縁不良	最悪の場合、変速不能となるおそれがある。	フェールセーフ機能（非常スイッチ）により走行可能。
78	大型バス	ｻｰﾋﾞｽ連絡書	1989/01/09	フィンガーコントロールギアシフトユニットの交換	ポジションスイッチのコンタクト摩耗付着による導通不良	最悪の場合、変速不能となるおそれがある。	フェールセーフ機能（非常スイッチ）により走行可能。
79	大型トラック	メモ	1999/12/21	T/M　5/2WAYバルブ交換	5/2WAYﾊﾞﾙﾌﾞ耐熱性不足	変速段切替不良	商品性の問題
80	大型トラック	メモ	1999/12/21	T／Mコントロールバルブ交換	O-ﾘﾝｸﾞ耐熱性不足	ｼﾌﾄ操作力大	商品性の問題

拡大調査（指示改修）の詳細リスト

別紙3
2005.2.2

81	中型トラック	公簡	1995/02/16	クラッチレリーズフォーク点検	熱処理不良	ギヤ鳴きまたはギヤ入り不良。最悪の場合クラッチ切れ不良のおそれがある。	走行可能。予見性あり。
82	中型トラック	ｻｰﾋﾞｽ情報	1989/7	デフ異音	コンパニオンフランジ　スプライン　加工不良	発進時デフ付近より異音発生	商品性の問題
83	小型バス	ｻｰﾋﾞｽ連絡書	1997/05/19	ｱｸｾﾙｹｰﾌﾞﾙおよびｴﾝｼﾞﾝｽﾄｯﾌﾟｹｰﾌﾞﾙとﾍｯﾄﾞﾗﾝﾌﾟﾌﾞﾗｹｯﾄｽﾃｰ干渉	ﾍｯﾄﾞﾗﾝﾌﾟﾌﾞﾗｹｯﾄｽﾃｰとの隙間不足	干渉によりｱｸｾﾙｹｰﾌﾞﾙ、ｴﾝｼﾞﾝｽﾄｯﾌﾟｹｰﾌﾞﾙが損傷。	全車改修済
84	大型バス	メモ	1990	フィンガーコントロールT／Mインターロックスイッチ用コネクタ修正	インターロックスイッチ用コネクター部の防水処理が不適切。	ﾊﾟﾜｰﾀｰﾄﾞが不作動になるおそれがある。	商品性の問題
85	大型バス	メモ	1990	ﾌｨﾝｶﾞｰｺﾝﾄﾛｰﾙT/M　GSUｴｱﾊﾟｲﾌﾟ部点検	ＧＳＵエアパイプとエアチャージパイプとの隙間不足	エアチャージパイプがＧＳＵエアパイプと干渉の恐れ	商品性の問題
86	大型バス	依頼書	1989/07/18	冷房サブエンジン始動不良	燃料配管にエア混入	冷房エンジン始動不良になるおそれがある。	商品性の問題
87	大型バス	メモ	1990/02/19	エアコン用ウォータポンプ作動不良	ｸﾞﾘｰｽの熱余裕不足でウォータポンプ軸受ﾍﾞｱﾘﾝｸ固着	エアコンを暖房モードにするとウォータポンプ用ヒューズ断	商品性の問題
88	大型バス	公簡	1991/02/26	ｴｱｺﾝ冷え不良	クーラダクト吹出し位置不良	冷え不良	商品性の問題
89	大型バス	依頼書	1994/10/04	ｴｱｺﾝｻﾌﾞｴﾝｼﾞﾝ　ｳｫｰﾀﾎﾟﾝﾌﾟの交換	ウォータポンプハウジング部とベアリングのかん合不良（ルーズ）	サブエンジンから異音発生	全車改修済
90	大型バス	メモ	1984/07/19	ｱｸｾﾙﾍﾟﾀﾞﾙ改修	ｱｸｾﾙﾍﾟﾀﾞﾙﾋﾝｼﾞの溶接不良	アクセル操作がやりにくい	商品性の問題
91	社内公簡	依頼書	1990/08/27	エアコンサブエンジン･クランクプーリ不具合	クランクプーリー加工不良	Ｖ溝肉厚不足によりクランクプーリー破損、最悪の場合サブエンジンのオーバーヒートになるおそれがある。	商品性の問題
92	中型バス	メモ	1985/10/12	直結ｸｰﾗ冷媒配管変更	配管ステーの強度不足	冷媒漏れ	商品性の問題
93	中型バス	メモ	1990/12	ﾘﾔﾌﾚｰﾑ各部補強（リヤエアサス車）	サスペンション変更に伴うフレームの強度不足	過大入力時にフレームに亀裂が入るおそれがある。	全車改修済
94	中型バス	メモ	1987/05/20	ｸｰﾗ用配線ｺﾈｸﾀ点検	ｸｰﾗﾊｰﾈｽのｷﾎﾞｼ端子ｻｲｽﾞ誤組	クーラー作動不良	商品性の問題
95	大型トラック	ｻｰﾋﾞｽ連絡書	1983/11/14	高速緩制動時のｷｬﾌﾞ振動	ｽﾃｱﾘﾝｸﾞｺﾗﾑブラケットの剛性不足	高速緩制動時ﾊﾝﾄﾞﾙ振れ･ｷｬﾌﾞ振動	商品性の問題
96	大型トラック	依頼書	1984/06/26	エアマスタ点検	エアマスタのヨーク製造不良	ブレーキ引き摺り （車両火災事例あり）	当該車一台のみの不具合
97	大型バス	公簡	1985/10/03	ブレーキ配管ｼﾞｮｲﾝﾄ変更	正規でないフレアナットを誤組	ﾌﾞﾚｰｷｵｲﾙ漏れ	対策後20年を経過しており、今後不具合の発生はないものと考える。

拡大調査（指示改修）の詳細リスト

別紙3
2005.2.2

3．リコール案件だが、今後不具合発生の可能性が小さく市場措置をしない案件（20件）

No	対象車種	書類	関係書類発行日	項目	不具合原因	不具合事象	市場措置要否の判断理由
98	大型バス	メモ	1985/04/09	フィンガーコントロール　ギアシフトユニット配管ホース化	ｴﾙﾎﾞ位置決め時締付力過大による初期応力及び繰り返し応力により破損	変速不能、及びクラッチ踏力過大、最終的には走行不能となるおそれがある	不具合は1万km以内で発生。20年間不具合情報なく、また車検にてチェック可能な部位のため、今後発生のおそれはないと考える。
99	大型バス	メモ	1994/03/09	リターダ付T／Mダストプラグ脱落	製造不良 （ﾀﾞｸﾄﾌﾟﾗｸﾞ打ち込み時のエクステンション・ハウジングの穴変形）	オイル洩れ、焼き付き	不具合は5ヶ月以内で発生し、11年間不具合情報なく、今後発生のおそれはないと考える。
100	大型バス	依頼書	1990/08/27	ABS付車リヤブレーキコネクタ組付け不良	組み付け不良（誤組）	ＡＢＳ作動不良又は制動力低下	ブレーキパイプは法令点検を義務付けられている。14年間不具合情報なく全て措置されていると考える
101	中型トラック	ｻｰﾋﾞｽ情報	1993/11/22	エアマスター水浸入	エアブリーザのねじ部シール不良	ｼﾘﾝﾀﾞ内の発錆により、エアマスター作動不良となり、ｴｱ漏れ、制動力低下のおそれがある	エアマスタは2年毎の定期点検部品であること、及び、対策後11年を経過していることから、定期点検・車検にて是正されていると考える。
102	中型トラック	メモ	1987/03/27	ハイドロマスターのリレーバルブ水浸入	エアダクトのシール不良	ﾊｲﾄﾞﾛﾏｽﾀｰのﾘﾚｰﾊﾞﾙﾌﾞ部に水が浸入し、ﾘﾚｰﾊﾞﾙﾌﾞが作動不良となり、制動力低下する。	リレーバルブ部のゴム部品は、2年毎の定期交換部品であり、交換時に周辺の錆状況は確認されること、及び、対策後18年を経過していることから、定期点検・車検にて是正されていると考える。
103	中型バス	メモ	1990/12	ﾘﾔｴｱｻｽｽﾀﾋﾞﾗｲｻﾞｻﾎﾟｰﾄ交換	強度・剛性不足	Uﾎﾞﾙﾄ脱落のおそれがある	全車改修済
104	大型バス	依頼書	1990/04/27	ステアリングベルクランク、アイドラアーム交換	耐久強度不足に関する懸念 （社内、念押しの台上耐久試験で発見）	操舵不能となるおそれがある	社内台上耐久強度基準未達。 補用品調査結果、ﾍﾞﾙｸﾗﾝｸ4個、 ｱｲﾄﾞﾗｱｰﾑ2個の出荷を確認。 現在更なる追跡調査中。
105	大型バス	メモ	1983/09/24	独立懸架車 ﾌﾛﾝﾄﾌﾞﾚｰｷﾎｰｽ干渉	ブレーキホース配索不良	ホースとホイールが干渉するおそれがある	対策後21年間を経過しており、ﾎｰｽは2年毎の定期交換部品で、干渉は定期点検・車検にて是正されていると考える。
106	中型トラック	メモ	1994/11/21	Ｔ／Ｍコントロールケーブル取付けナット脱落	取付けナットの締め付け不足	ケーブルが外れT/M変速不能	ナットの脱落はすべて1000km走行以内に発生しすぐにシフト不能となる早期発生型不具合であり、製作後10年以上経過しているので不具合は既に是正されていると考える。
107	小型トラック	メモ	1995/03/15	ﾌﾛﾝﾄｴｷｿﾞｰｽﾄﾊﾟｲﾌﾟ・ﾏﾌﾗｰ誤組み	ﾌﾛﾝﾄｴｷｿﾞｰｽﾄﾊﾟｲﾌﾟ・ﾏﾌﾗｰ誤組み （M/T車にA/T用部品を取付け）	車外騒音基準を外れるおそれがある	改修済み

拡大調査（指示改修）の詳細リスト

別紙3
2005.2.2

108	大型バス	ｻｰﾋﾞｽ連絡書	1987/02/24	ﾅｯｸﾙｻﾎﾟｰﾄ点検	製造工程の極めて稀な条件で注湯が中断し、個数は極めて少数と思われるが一部部品に湯境が発生した可能性がある。	巣（湯境）の部分から亀裂が生じるおそれがある。	亀裂発生の事実記録無く、市場情報および当該部品のﾜﾗﾝﾃｨｸﾚｰﾑ交換も無い。製作時より既に19年以上経過しており、亀裂が今後も発生するおそれは無いと考える。
109	小型バス	公簡	1995/09/15	ウォーターポンプ，ファンカップリング他交換	曲げﾀﾞﾝﾊﾟのｱﾝﾊﾞﾗﾝｽ過大	異常振動が発生し、ウォータポンプケースが亀裂する可能性がある。	不具合時は、異音・振動が発生するため、予見性あり。進行すると水漏れが発生するが、定期点検・車検時に確認・是正されていると考える。（生産後９年経過）
110	小型トラック	ｻｰﾋﾞｽ情報	1995/08/01	T/Mニュートラルスイッチ交換作業	ﾌﾟｯｼｭﾛｯﾄﾞの動きに渋り・引っ掛りが発生する	ｼﾌﾄ操作力大、無理にｼﾌﾄするとﾌﾟｯｼｭﾛｯﾄﾞ先端が折損し、最悪の場合ｼﾌﾄ不能となるおそれがある	市場情報より折損不具合は極めて早期（4000km以下）に発生。また検知性もあり、9年間同様不具合情報はなく、今後の発生はないと考える
111	大型トラック	公簡	1988/10/11	シーリングキャップ脱落	ｽﾋﾟﾝﾄﾞﾙ加工不良	ﾘﾔﾊﾌﾞベアリングが焼き付き、最悪の場合、火災、タイヤ脱落に至る恐れがある	対策後16年間経過しており、今後発生の可能性はないと考える。
112	中型トラック	メモ	1998/06/12	クラッチペダルもどり不良	スプラインハブの外径不良（クラッチシフターのスプラインへの噛込み）	クラッチ接続不良、最悪の場合は走行不能となるおそれがある	市場情報より不具合は早期発生型（2.4万km以下）である。最近6年間不具合情報は無く、今後の発生はないと考える。
113	大型バス	メモ	1983/03/16	ｱｸｾﾙﾜｲﾔ先端T型ｴﾝﾄﾞ交換	ワイヤのT型エンド長さ不足	アクセルペダル側レバーとアクセルケーブルを接続するT型エンドが外れ，エンジンコントロールができなくなる。	対策後21年間経過しており、今後発生の可能性はないと考える。
114	大型バス	ｻｰﾋﾞｽ連絡書	1986/03/13	燃料ホース交換	配管経路の指示不良	エンジンと車体置き燃料ﾌｨﾙﾀｰを往復する燃料ホース同士が干渉し、燃料漏れをおこす可能性がある	対策後18年以上経過しており、今後この不具合発生の可能性はないと考える。ｴﾝｼﾞﾝﾙｰﾑの燃料ホースは保安部品で2年ごとの定期交換部品である。
115	大型バス	メモ	1983/12	ﾌﾛﾝﾄﾌﾞﾚｰｷ用ｴｱﾊﾟｲﾌﾟ交換	フロントアクスルアッパーラジアスロッド締付ナットと、エアパイプ隙間不足	最悪の場合干渉によりエアパイプが損傷し、制動力低下のおそれがある	対策後21年間経過しており、今後発生の可能性はないと考える。
116	小型バス	公簡	1991/12/13	ｲﾙﾐﾈｰｼｮﾝﾗﾝﾌﾟﾊｰﾈｽ、ﾌﾛﾝﾄﾎﾞﾃﾞｰﾊｰﾈｽ干渉	ﾊｰﾈｽとﾋｰﾀｰｺﾝﾄﾛｰﾙﾚﾊﾞｰ及びﾜｲﾊﾟｰﾘﾝｸとの隙間不足	イルミネーションランプ、ヘッドランプ不灯	全車改修済
117	小型バス	公簡	1997/10/15	ﾌﾛﾝﾄﾌﾞﾚｰｷﾎｰｽ　配索変更	フロントブレーキホース配索不良	アッパーアームに挟まれホース潰れによる制動力低下のおそれがある	全車改修済

4．措置済の案件（1件）

No	対象車種	書類	関係書類発行日	項目	不具合原因	不具合事象	市場措置要否の判断理由
118	大型バス	依頼書	1990/04/19	ＡＢＳコントローラ交換	コントローラのロジック不良	高速時における緩制動からペダル踏み直し急制動に移行した際、コントロールバルブがチャタリングする場合がある	03/12、改善対策実施済（Ｋ２４１）

拡大調査の人身・物損・火災の詳細リスト

別紙4

2005．2．2

1．人身事故

No.11 ﾄﾙｸﾛｯﾄﾞ折損の件

No	車両型式	架装	不具合発生日	登録日	走行距離（km）	現象	発生場所	不具合状況	備考
1	FU418N	ﾀﾞﾝﾌﾟ	昭和62年12月23日	昭和60年10月14日	282,649	操舵異常により車両横転 ﾄﾙｸﾛｯﾄﾞ折損	岐阜県 久々野町 国道41号線	国道走行中、左ｶｰﾌﾞを曲がる手前で異音発生。左側ﾘﾔﾘﾔのﾄﾙｸﾛｯﾄﾞが折損したため車両が右へ流れ横転し、道路側面のﾌﾞﾛｯｸ塀に当たって積荷のｺｰｸｽが路上に散乱した。ﾄﾞﾗｲﾊﾞはｷｬﾌﾞから脱出不能で負傷した。	

No.12 ﾌﾟﾛﾍﾟﾗｼｬﾌﾄﾕﾆﾊﾞｰｻﾙｼﾞｮｲﾝﾄ不具合

No	車両型式	架装	不具合発生日	登録日	走行距離（km）	現象	発生場所	不具合状況	備考
2	FV415JR	ﾄﾗｸﾀ	平成7年9月30日	昭和63年5月	542,581	ﾌﾟﾛﾍﾟﾗｼｬﾌﾄ脱落	大阪府 高槻市 国道171号線	国道走行中、ﾌﾟﾛﾍﾟﾗｼｬﾌﾄ脱落し、信号で停車中の車両4台に追突した。人身事故発生したが、軽症であった。	

拡大調査の人身･物損･火災の詳細リスト

別紙4

2005.2.2

2．物損事故

No.11 ﾄﾙｸﾛｯﾄﾞ折損の件

No	車両型式	架装	不具合発生日	登録日	走行距離(km)	現象	発生場所	不具合状況	備考
1	FU418U	ｱﾙﾐﾌﾞﾛｯｸ	平成5年5月11日	昭和60年12月1日	62,591	操舵異常により車両横転 ﾄﾙｸﾛｯﾄﾞ折損	奈良県 西名阪道路	西名阪道路を大阪⇒名古屋へ走行中、香芝トンネル手前の緩やかな登り坂の直線道路で車体振動発生後、車線変更後、車体が左へ横転した。	
2	FU410U	不明	平成6年12月23日	平成3年8月23日	369,125	操舵異常 ﾄﾙｸﾛｯﾄﾞ折損	和歌山	県道を走行中、農道へ入るため左折したところリヤが右に振られ戻らず約30mのところにある倉庫の屋根に当り停車。	
3	FU418U	ｳｨﾝｸﾞﾊﾞﾝ	平成13年3月8日	平成2年4月1日	716,742	操舵異常により車両横転 ﾄﾙｸﾛｯﾄﾞ折損	岐阜県 名神高速 関が原付近	名神高速の関が原インター（下り）より進入、加速車線の本線との合流点手前にて左旋回時、車両が傾き横転。	
4	FU410U	ｳｨﾝｸﾞﾊﾞﾝ	平成13年8月25日	平成3年9月1日	784,763	操舵異常により車両横転 ﾄﾙｸﾛｯﾄﾞ折損	福岡県 柳川市	福岡県柳川市内を長崎へ向けて走行中、交差点を右折した際に左側へ横転した。	
5	FU415J	ﾀﾞﾝﾌﾟ	平成13年9月25日	平成7年5月10日	468,619	操舵異常により車両横転 ﾄﾙｸﾛｯﾄﾞ折損	三重	走行中にﾄﾙｸﾛｯﾄﾞが折損し車両横転した。	
6	FU418U	ﾀﾞﾝﾌﾟ	平成16年11月19日	平成2年1月24日	545,022	操舵異常により車両横転 ﾄﾙｸﾛｯﾄﾞ折損	愛媛県 四国中央市 国道192号線	愛媛県四国中央市国道１９２号線の下り左コーナーにて車輌横転。	

No.12 ﾌﾟﾛﾍﾟﾗｼｬﾌﾄﾕﾆﾊﾞｰｻﾙｼﾞｮｲﾝﾄ不具合

No	車両型式	架装	不具合発生日	登録日	走行距離(km)	現象	発生場所	不具合状況	備考
7	FV414JR	ﾄﾗｸﾀ	平成7年10月1日	平成2年1月31日	558,358	ﾌﾟﾛﾍﾟﾗｼｬﾌﾄ脱落	兵庫県 中国自動車道 上り社PA付近	中国自動車道上り社PA付近走行中にﾌﾟﾛﾍﾟﾗｼｬﾌﾄ脱落。後続の乗用車が脱落したﾌﾟﾛﾍﾟﾗｼｬﾌﾄに接触。	
8	FV414JR	ﾄﾗｸﾀ	平成5年6月22日	平成2年10月29日	252,557	ﾌﾟﾛﾍﾟﾗｼｬﾌﾄ脱落	愛知県 名神高速岩倉 バス停付近	名神高速岩倉バス停付近走行中にﾌﾟﾛﾍﾟﾗｼｬﾌﾄ脱落。反対車線を走行していた乗用車が脱落したﾌﾟﾛﾍﾟﾗｼｬﾌﾄに乗り上げた。	
9	FV414JR	ﾄﾗｸﾀ	平成16年7月14日	平成5年5月28日	1,142,028	ﾌﾟﾛﾍﾟﾗｼｬﾌﾄ脱落	山口県 中国自動車道 美弥市付近	中国自動車道上り美弥市付近を走行中にﾌﾟﾛﾍﾟﾗｼｬﾌﾄ脱落し、後続車（大型トラック）がﾌﾟﾛﾍﾟﾗｼｬﾌﾄに接触した。	

3．火災事故

No.12 ﾌﾟﾛﾍﾟﾗｼｬﾌﾄﾕﾆﾊﾞｰｻﾙｼﾞｮｲﾝﾄ不具合

No	車両型式	架装	不具合発生日	登録日	走行距離(km)	現象	発生場所	不具合状況	備考
1	FV414JR	ﾄﾗｸﾀ	平成14年6月25日	平成5年10月17日	約400,000	火災	岡山県 山陽自動車道 道口P.A付近	走行中、異変に気付き何か物が落下するのをバックミラーで確認。車両を停止し車から降りると車両の内側ホイールベース間より出火全焼。	